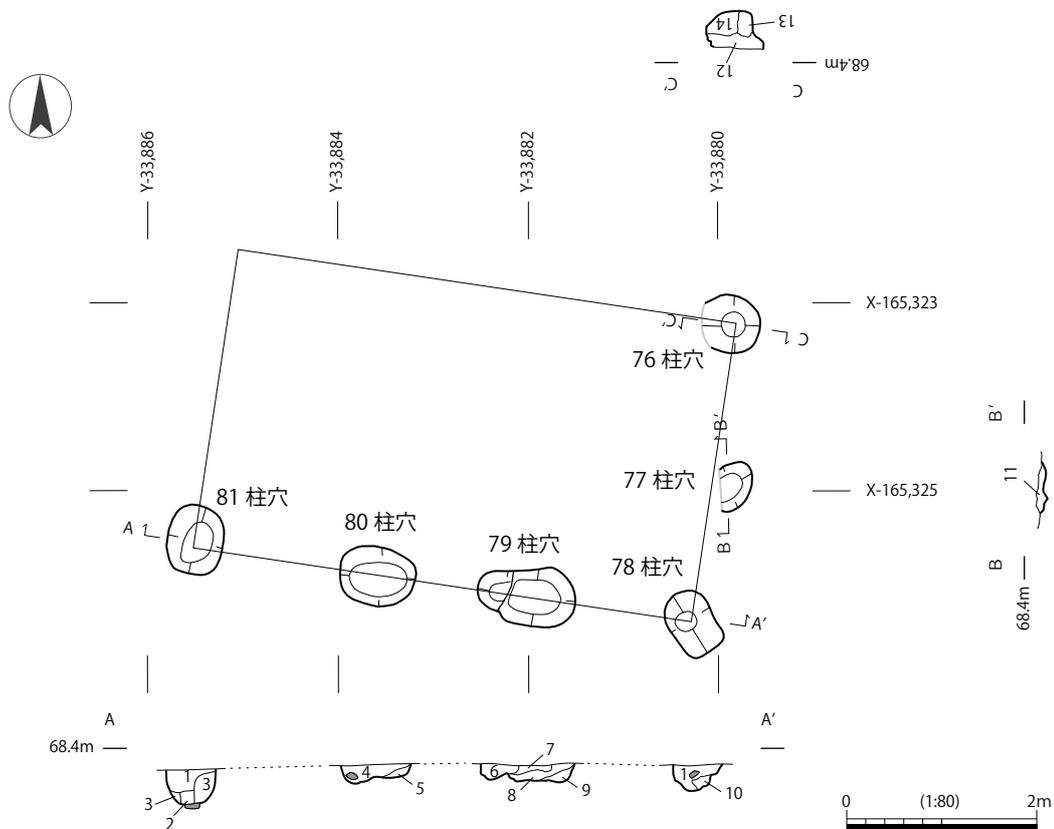


柱穴からの出土遺物は少量でかつ、図化できるものはないが、16柱穴と17柱穴から8世紀後半に考えられる、放射状暗文が施された土師器杯または皿の小片が出土している。

### 掘立柱建物3 (図16、20 写真8-5、9-1~5)

1区の掘立柱建物2の南で検出している。攪乱や中世以降の耕作に伴う削平を受け、南の桁行と東の梁行の柱穴しか検出できなかったが、北で約10度東へ振れる桁行3間梁行2間の側柱建物と考えられる。検出した桁行の柱間は、東から1.8m、1.5m、2.0m。梁行の柱間は、南から1.5m、1.7mを測る。桁行の延長5.3m、梁行の延長は3.2mで、建物の面積は約17㎡である。

柱穴には抜取りがみられるため、平面形は不整形を呈する。深さは81柱穴や76柱穴の深いもので約0.40m、浅いものでは0.15mを測り、隅柱の掘方が深い傾向を示す。柱穴掘方の埋土はおおむね褐灰色シルト細粒砂混じりで中粒砂を含み、基盤層の黄褐色シルト細粒砂混じりのブロックを若干含む。



- |    |         |    |                                 |         |    |  |
|----|---------|----|---------------------------------|---------|----|--|
| 1  | 10YR5/1 | 褐灰 | シルト細粒砂混じり中粒砂含むに                 | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック若干含む (抜取り)          |
| 2  | 10YR5/1 | 褐灰 | シルト細粒砂混じり中粒砂含むに                 | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロックと                   |
|    | 10YR3/1 | 黒褐 | シルト細粒砂混じりのブロック含む (抜取り)          |         |    |  |
| 3  | 10YR5/1 | 褐灰 | シルト細粒砂混じり中粒砂含むに                 | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック僅かに含む (掘方)          |
| 4  | 10YR5/1 | 褐灰 | シルト細粒砂混じり中粒砂含む炭化物含む             |         |    |  |
| 5  | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト細粒砂混じり (基盤層) に極粗粒砂~細礫含む (掘方) |         |    |  |
| 6  | 10YR5/1 | 褐灰 | シルト細粒砂混じり中~極粗粒砂含むに              | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック含む (別のピット)          |
| 7  | 10YR5/1 | 褐灰 | シルト細粒砂混じり中粒砂含むに                 | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック若干含むφ0.5 cm含む (抜取り) |
| 8  | 10YR5/1 | 褐灰 | シルト細粒砂混じり中粒砂含むに                 | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロックと                   |
|    | 10YR5/1 | 褐灰 | シルト細粒砂混じり中~極粗粒砂ブロック含む (抜取り)     |         |    |  |
| 9  | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト細粒砂混じり (基盤層) に               | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック若干含む (掘方)           |
| 10 | 10YR5/1 | 褐灰 | シルト細粒砂混じり中粒砂含む (掘方)             |         |    |  |
| 11 | 10YR5/1 | 褐灰 | シルト細粒砂混じり中~極粗粒砂含むに              | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック含む                  |
| 12 | 10YR5/1 | 褐灰 | シルト細粒砂混じり中粒砂含むに                 | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック僅かに含む (抜取り)         |
| 13 | 10YR5/1 | 褐灰 | シルト細粒砂混じり (柱痕跡か)                |         |    |  |
| 14 | 10YR5/1 | 褐灰 | シルト細粒砂混じり中粒砂含むと                 | 10YR5/6 | 黄褐 | シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック土 (掘方)              |

図20 掘立柱建物3

抜取りの埋土はおおむね褐灰色シルト細粒砂混じりで中粒砂を含み、基盤層の黄褐色シルト細粒砂混じりのブロックを掘方埋土よりも多く含む。

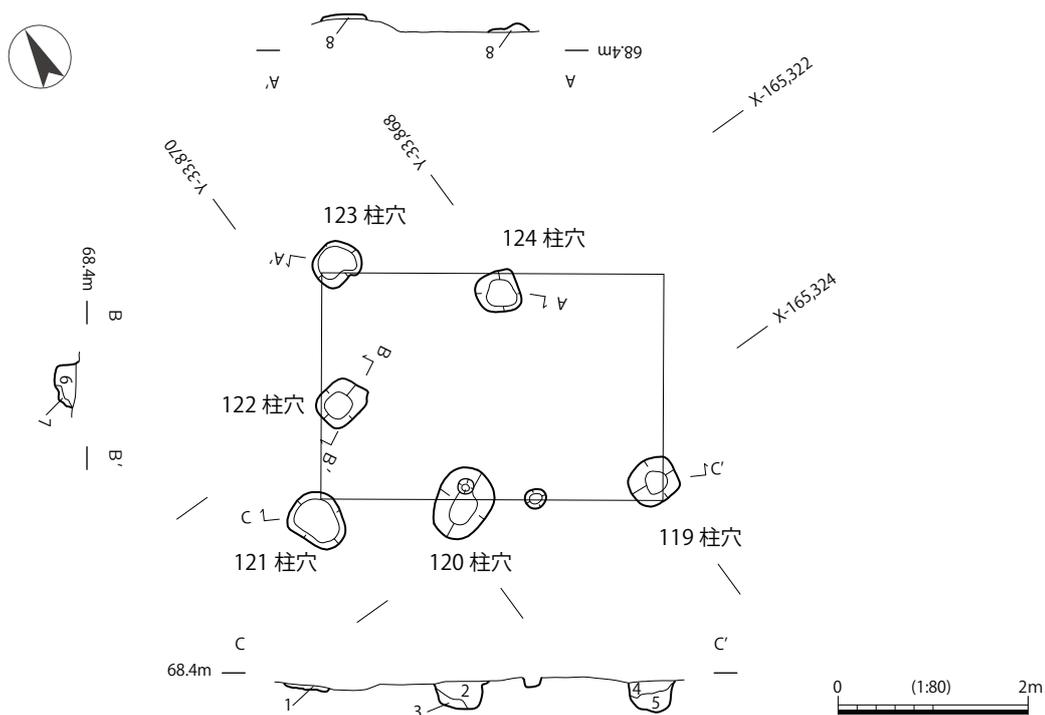
柱穴からは須恵器や土師器の細片が出土しているのみで、時期が特定できる遺物はない。

#### 掘立柱建物 4 (図 16、21 写真 10-1~5)

1区で検出している北で約37度西へ振れる側柱建物である。北東隅柱が、現代の攪乱により削平され失われている。建物は桁行2間梁行2間で、桁行の柱間は1.8m等間、梁行の柱間は南西から1.0m、1.4mを測る。桁行の延長は3.6m、梁行の延長は2.4mで、建物の面積は約9㎡である。

柱穴の平面形は不整形で、深さは122・119・120柱穴が0.24~0.30mを測るが、他は0.06m前後と浅い。埋土はおおむね灰褐色細粒砂シルト混じりで中粒砂含み、褐灰色シルト細粒砂混じりのブロックが混じる。

柱穴からは須恵器や土師器の細片が出土しているのみで、時期が特定できる遺物はないが、建物1と同様に、建物の向きが正方位から大きく振れることから、中世以降の建物と考えられる。



- 1 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロックφ1~0.5 cmと 10YR6/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ0.5 cmのブロック若干含む
- 2 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロックφ1~0.5 cmを含む 10YR6/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ0.5 cmのブロック若干含む
- 3 10YR6/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ0.5 cmのブロックに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロックφ1~0.5 cmを含む
- 4 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むに 10YR6/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ0.5 cmのブロック混じる
- 5 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むに 10YR6/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ0.5 cmのブロック混じる 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロックφ1~0.5 cm若干含む
- 6 10YR6/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ0.5 cmに 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むブロック含む
- 7 10YR6/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ0.5 cm含む
- 8 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロックφ1~0.5 cmに 10YR6/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ0.5 cmのブロック含む

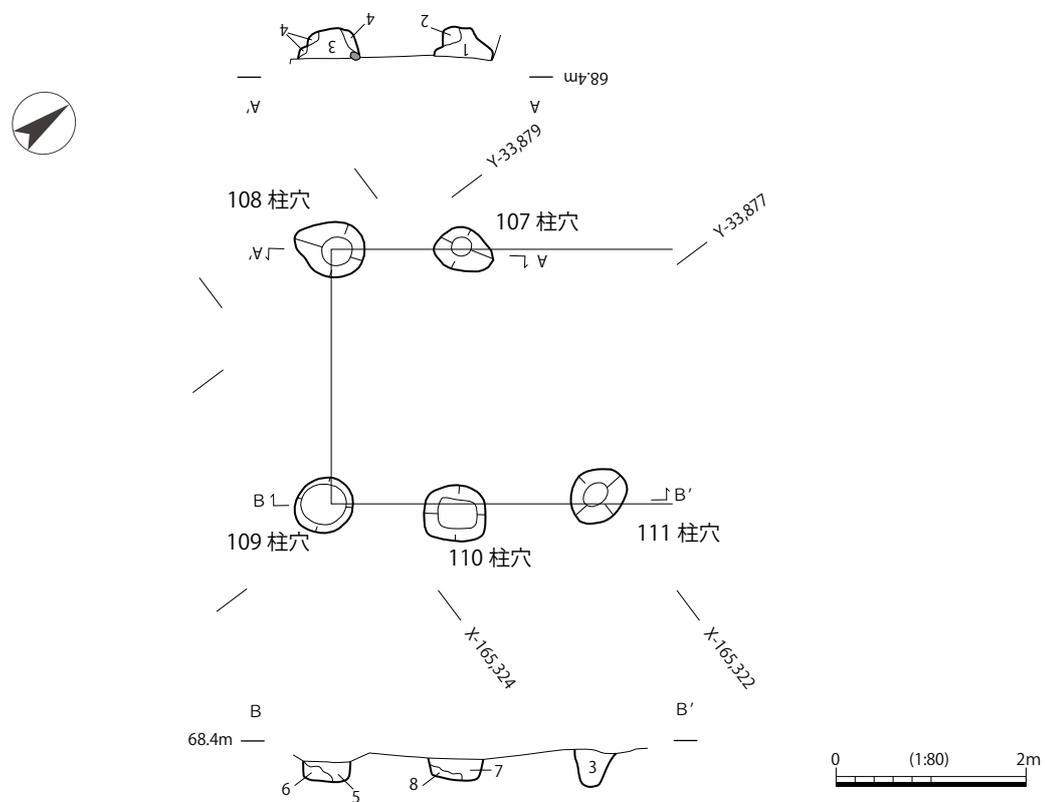
図 21 掘立柱建物 4

掘立柱建物5 (図 16、22 写真 11-1~5)

掘立柱建物6と重複する、北で約37度東へ振れる北東-南西方向の側柱建物である。柱穴の重複がないため、前後関係は不明である。建物の北東側が現代の攪乱により削平され失われており、桁行2間梁行1間分を検出したのみである。桁行の柱間は南西から1.2m、1.5mを測る。梁行には妻柱がなく、柱間は2.7mを測る。おそらく、梁間一間型と呼ばれる形態の掘立柱建物であろう。

柱穴の平面形は、抜取りのため不整形を呈し、深さは0.2~0.4mを測る。抜取りの埋土はおおむね、褐灰色シルト細粒砂混じりに中粒砂含み、基盤層である明黄褐色シルト細粒砂混じりで極粗砂粒を含む直径0.05~0.02mのブロックを若干含む。掘方の埋土は、抜取りの埋土に比べやや暗い色調を呈する。

柱穴からは須恵器片や土師器片が出土しているのみで、時期の特定できる遺物はないが、掘立柱建物4と同様の建物の向きをしており、中世以降の建物と考えられる。



- |   |         |         |                 |                             |         |  |                             |
|---|---------|---------|-----------------|-----------------------------|---------|--|-----------------------------|
| 1 | 10YR4/1 | 褐灰      | シルト細粒砂混じり中粒砂含むに | 10YR6/6                     | 明黄褐     | シルト細粒砂混じり極粗粒砂含むブロックφ0.5~2cm若干含む(抜取り)     |                             |
| 2 | 10YR4/1 | 褐灰      | シルト細粒砂混じり中粒砂含むに | 10YR3/2                     | 黒褐      | シルト細粒砂混じり中粒砂含むと                          |                             |
|   |         |         |                 | 10YR6/6                     | 明黄褐     | シルト細粒砂混じり極粗粒砂含むブロックφ0.5~2cmのブロックを含む(掘方?) |                             |
| 3 | 10YR4/1 | 褐灰      | シルト細粒砂混じり中粒砂含むと | 10YR6/6                     | 明黄褐     | シルト細粒砂混じり極粗粒砂含むブロック土φ2~3cmがほぼ同じ割合で混じる    |                             |
| 4 | 10YR4/1 | 褐灰      | シルト細粒砂混じり中粒砂含むに | 10YR6/6                     | 明黄褐     | シルト細粒砂混じり極粗粒砂含むブロックφ0.5~1cm含む            |                             |
| 5 | 10YR4/1 | 褐灰      | シルト細粒砂混じり中粒砂含むに | 10YR6/6                     | 明黄褐     | シルト細粒砂混じり極粗粒砂含むブロックφ0.5~2cm僅かに含む         |                             |
| 6 | 上半に     | 10YR6/6 | 明黄褐             | シルト細粒砂混じり極粗粒砂含むブロックφ0.5~2cm |         |  |                             |
|   | 下半に     | 10YR4/1 | 褐灰              | シルト細粒砂混じり中粒砂含むと             | 10YR6/6 | 明黄褐                                      | シルト細粒砂混じり極粗粒砂含むブロックφ0.5~2cm |
| 7 | 10YR4/1 | 褐灰      | シルト細粒砂混じり中粒砂含むに |                             |         |  |                             |
|   | 10YR4/3 | 黒褐      | シルト細粒砂混じり中粒砂含むと | 10YR6/6                     | 明黄褐     | シルト細粒砂混じり極粗粒砂含むブロックを若干含む                 |                             |
| 8 | 10YR4/3 | 黒褐      | シルト細粒砂混じり中粒砂含むに |                             |         |  |                             |
|   | 10YR4/1 | 褐灰      | シルト細粒砂混じり中粒砂含むと | 10YR6/6                     | 明黄褐     | シルト細粒砂混じり極粗粒砂含むブロックを含む                   |                             |

図 22 掘立柱建物5

掘立柱建物6 (図 16、23 写真 12-1~4)

掘立柱建物5と重複する、北で西へ45度振れる北東-南西方向の側柱建物である。北東側は現代の攪乱により失われており、桁行1間梁行1間分を検出したのみである。桁行の柱間は1.8m、梁行は2.1mで、掘立柱建物5と同様に妻柱のない、梁間一間型の掘立柱建物と考えている。

柱穴の平面形は不整形で、深さは0.1~0.3mを測る。断面からは、抜取りと掘方の関係は読み取れなかったが、おそらく柱は抜き取られているものと考えられる。埋土は大きくみると、褐灰色シルト細粒砂混じりで粗粒砂を含み、基盤層である明黄褐色シルト細粒砂混じりのブロックを若干含む。

柱穴からは須恵器片や土師器片が出土しているのみで、時期の特定できる遺物はないが、掘立柱建物4・5と同様の建物の向きをしており、中世以降の建物と考えられる。

掘立柱建物7 (図 16、24 写真 12-5、13-1~5)

掘立柱建物4の南で検出した、北で2度西へ振れるがほぼ正方位に向く側柱建物である。南東隅柱は検出できなかったが、桁行2間梁行2間の東西棟である。桁行の柱間は東から1.2m、1.8mと西側の柱間が広い。梁行の柱間は南から1.0m、1.2mに割付けることができるが、西側の妻柱がやや北へ寄る。延長は桁行3.0m、梁行2.2mで、建物の面積は約7㎡を測る。

柱穴の平面形は不整形を呈し、深さは0.14~0.28mを測る。埋土はおおむね灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から粗粒砂を含み、基盤層である明黄褐色細粒砂シルト混じりのブロックを若干含む。

柱穴からは土師器片が出土しているが、図化できるものはなく、建物の時期の特定は難しいが、建物の向きが正方位であり、古代に考えたい建物である。

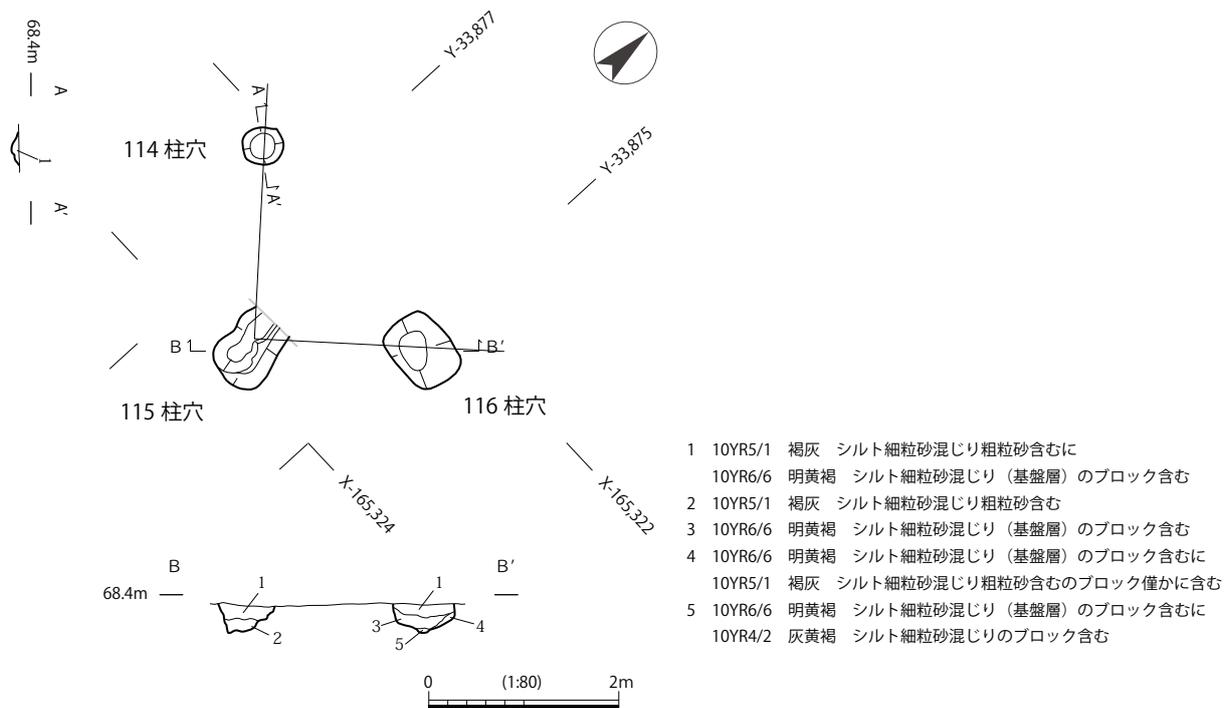


図 23 掘立柱建物6

掘立柱建物 8 (図 16、25 写真 14-1~5)

掘立柱建物 7 の西で検出した、北で 4 度西へ振れるがほぼ正方位に向く、2 間 2 間の総柱建物である。東西方向の柱間は東から 1.8 m、1.5 m、南北方向の柱間は南から 1.5 m、1.4 m で、柱筋は綺麗に揃う。東西延長は 3.3 m、南北延長は 2.9 m を測るほぼ正方形の建物で、面積は約 10 m<sup>2</sup> である。

柱穴の平面形は不整形を呈し、深さは 0.1 ~ 0.4 m を測る。埋土は大きくみると、灰黄褐色から褐灰色の細粒砂シルト混じりに中粒砂含み、基盤層である明黄褐色シルト細粒砂混じりの直径約 0.05m のブロックを若干含む。

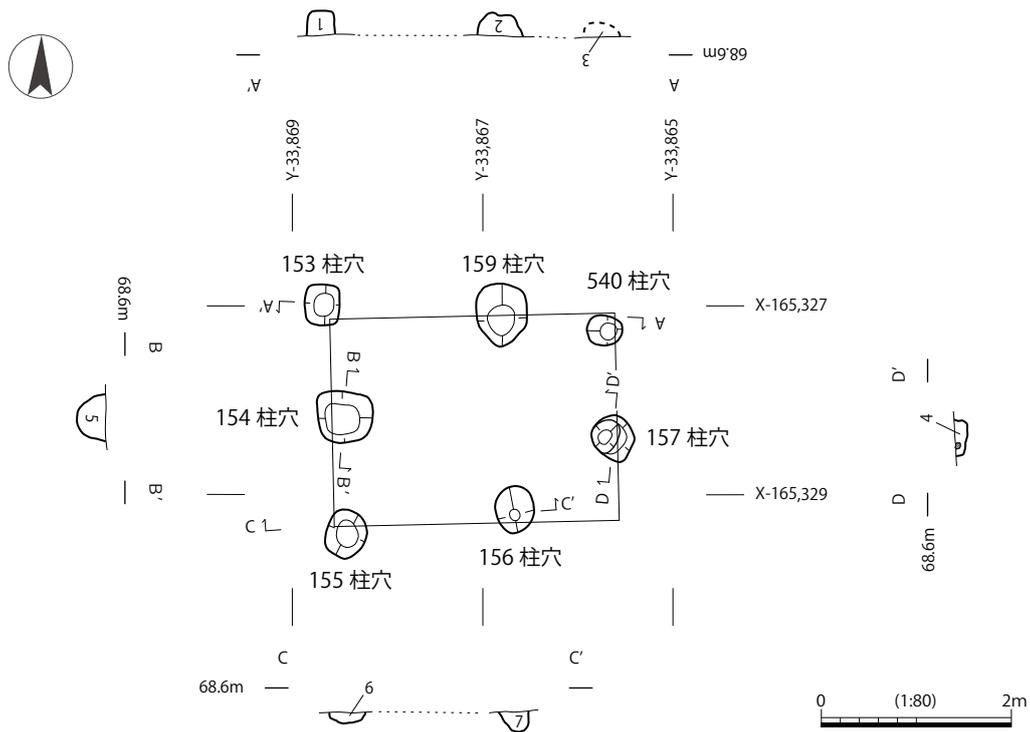
柱穴からは須恵器片が出土しているのみで図化できるものはなく、建物の時期の特定は難しいが、建物の向きが正方位を向き、柱穴もしっかりとした掘り方をしているので、古代に考えたい建物である。

掘立柱建物 9 (図 16、26、29-1・2 写真 15-1~5、35-1・2)

掘立柱建物 8 と重複関係にあるが柱穴が重複しておらず、前後関係は不明である。建物は北で約 3 度東へ振れるがほぼ正方位に向く、桁行 2 間梁行 2 間の南北棟の側柱建物である。

桁行の柱間は南 3.2 m、2.4 m。梁行の柱間は東から 1.8 m、1.0 m で、妻柱が西へ寄るが柱筋は通る。桁行きの延長は 2.8 m、梁行の延長は 5.6 m で、建物の面積は約 16 m<sup>2</sup> を測る。

柱穴の平面形は不整形で、大きさも不揃いである。深さは 0.08 ~ 0.26 m を測る。柱穴の埋土は大きくみると灰黄褐色細粒砂シルト混じりに中から極粗砂粒を含み、基盤層である明黄褐色シルト細粒砂

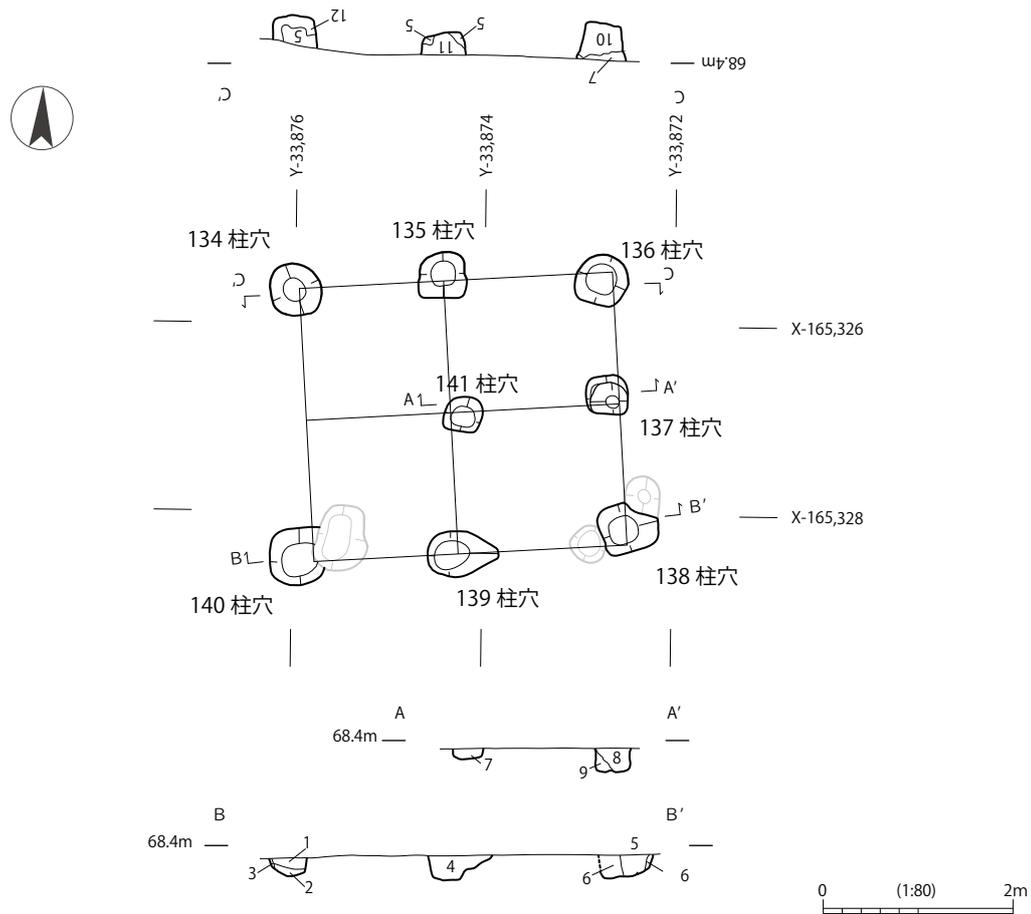


- 1 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中~粗粒砂含む 10YR6/6 明黄褐 細粒砂シルト混じり (基盤層) のブロック若干含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中~粗粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 細粒砂シルト混じり (基盤層) のブロック含む  
10YR5/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック含む
- 3 10YR6/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり砂シルト混じり
- 4 10YR6/6 明黄褐 細粒砂シルト混じり (基盤層) に 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中~粗粒砂含むと  
10YR5/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中~粗粒砂含むに 10YR5/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック含む  
10YR6/6 明黄褐 細粒砂シルト混じり (基盤層) のブロック若干含む
- 6 10YR6/6 明黄褐 細粒砂シルト混じり (基盤層) のブロック含むに 10YR5/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック含む
- 7 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中~粗粒砂含むに 10YR5/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック含む

図 24 掘立柱建物 7

混じりで中粒砂を含むブロックが混じる。掘立柱建物8の埋土に類似するが、やや色調が明るい。

柱穴からは土師器片、須恵器片、瓦器片が出土しており、図化できたものに14世紀前半の瓦器碗(図29-1)と、瓦器皿(2)がある。



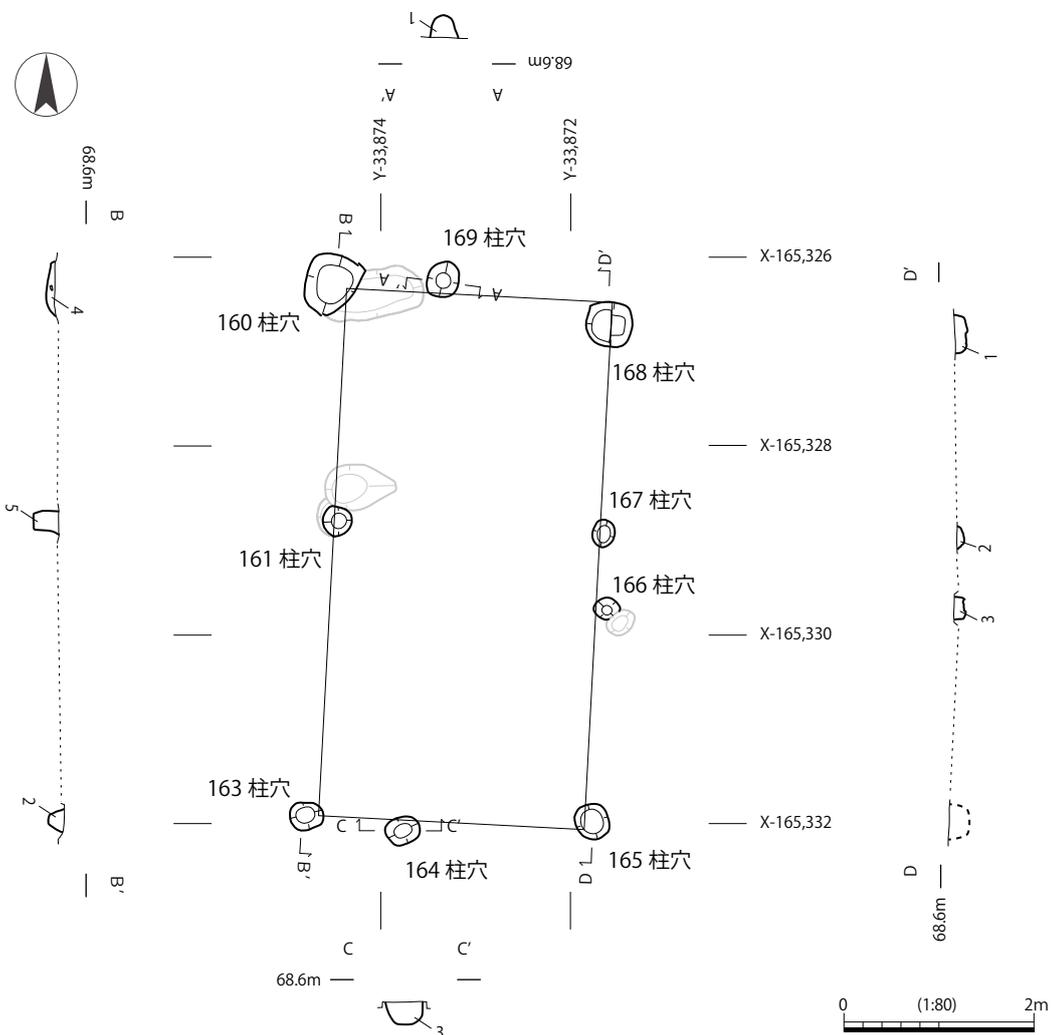
- 1 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり(基盤層)のブロックφ0.5~1cmと  
10YR6/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ0.5cm若干含む
- 2 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり(基盤層)のブロックφ0.5~1cmと 10YR6/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ0.5cmのブロック土
- 3 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり(基盤層)のブロックφ0.5~1cmに 10YR6/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ0.5cmを若干含む
- 4 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり(基盤層)のブロックφ0.5~1cmと  
10YR6/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ0.5cmのブロックを多く含む
- 5 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むに  
10YR6/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ0.5cm含む 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり(基盤層)のブロックφ0.5~1cm若干含む
- 6 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり(基盤層)のブロックφ0.5~1cmに 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むブロック含む
- 7 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり(基盤層)のブロックφ0.5~1cmを含むと  
10YR6/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ0.5cmのブロック含む
- 8 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり(基盤層)のブロックφ0.5~1cm含む
- 9 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり(基盤層)のブロックφ0.5~1cmに 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂のブロック若干含む
- 10 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり(基盤層)のブロックφ0.5~1cmに 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むと  
10YR6/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ0.5cm含む
- 11 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり(基盤層)のブロックφ0.5~1cmを含む  
10YR6/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ0.5cm下方に若干含む
- 12 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり(基盤層)のブロックφ0.5~1cmに 10YR6/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ0.5cm若干含む

図25 掘立柱建物8

掘立柱建物 10 (図 16、27、29 - 3 写真 16 - 1 ~ 5、35 - 3)

掘立柱建物 7 の南で検出した側柱建物で、北で約 5 度東へ振れる桁行 2 間梁行 2 間の南北棟である。桁行の柱間は東側と西側で大きく異なり、東側は南から 0.7 m、3.1 m と北の 1 間分が広い。西側も南から 1.7 m、2.1 m と北の 1 間分がやや広がっている。梁行の柱間は南側が東から 1.4 m、2.1 m と妻柱が東へ寄る。北側は東から 1.8 m、1.7 m で、側柱の通りに比べ、妻柱の通りが悪い。桁行の延長は 3.8 m、梁行の延長は 3.5 m で、建物の面積は約 13 m<sup>2</sup> を測る。

柱穴には抜取りがみられ、そのためか平面形は不整形を呈し大きさも不揃いである。深さは、0.18 ~ 0.4 m を測る。抜取りの埋土はおおむね灰黄褐色シルト細粒砂混じりで中から極粗砂粒を含み、褐灰色シルト細粒砂混じりのブロックと、基盤層である明黄褐色シルト細粒砂混じりのブロックを含む。掘方の埋土はおおむね基盤層である明黄褐色シルト細粒砂混じりのブロックに、灰黄褐色シルト細粒砂混

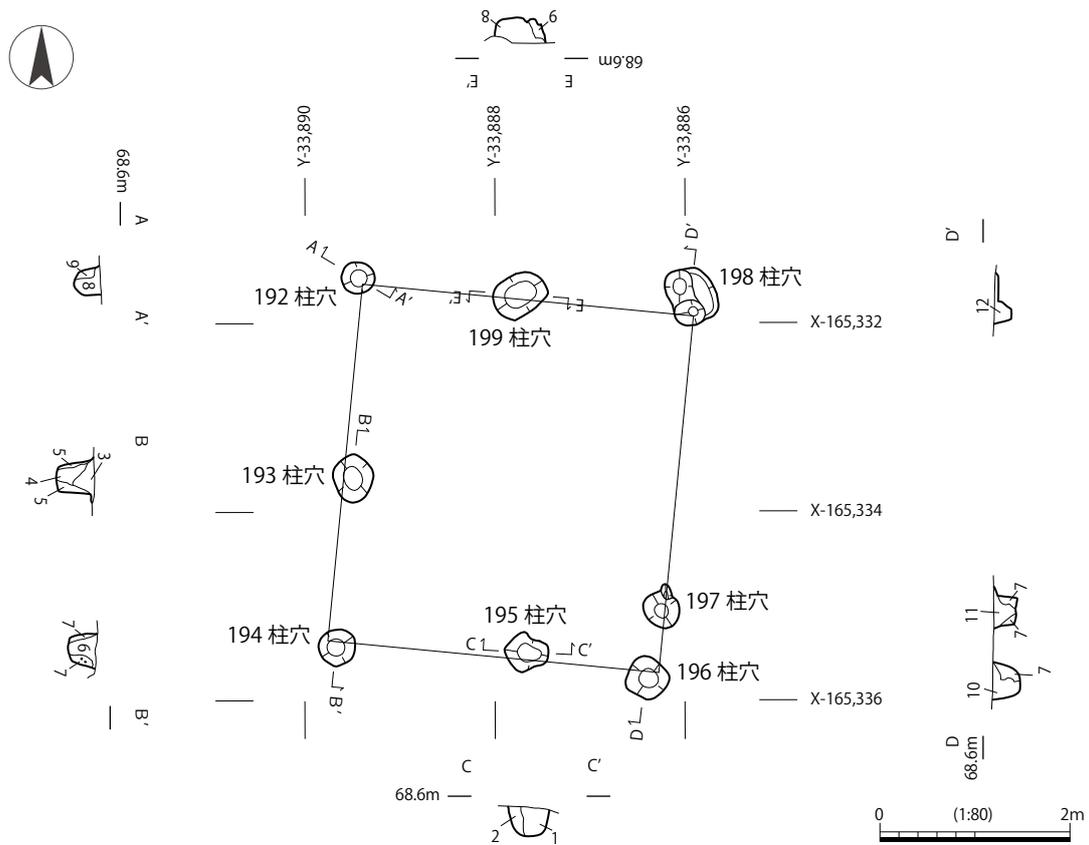


- 1 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ1～1.5cm含む  
下部に 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり中粒砂含むブロック若干含む
- 2 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む
- 3 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり中粒砂含むブロック含む
- 4 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックφ1～1.5cm含むと  
10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり中粒砂含むブロックφ1～1.5cm多く含む
- 5 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり中粒砂含むブロック多く含む

図 26 掘立柱建物 9

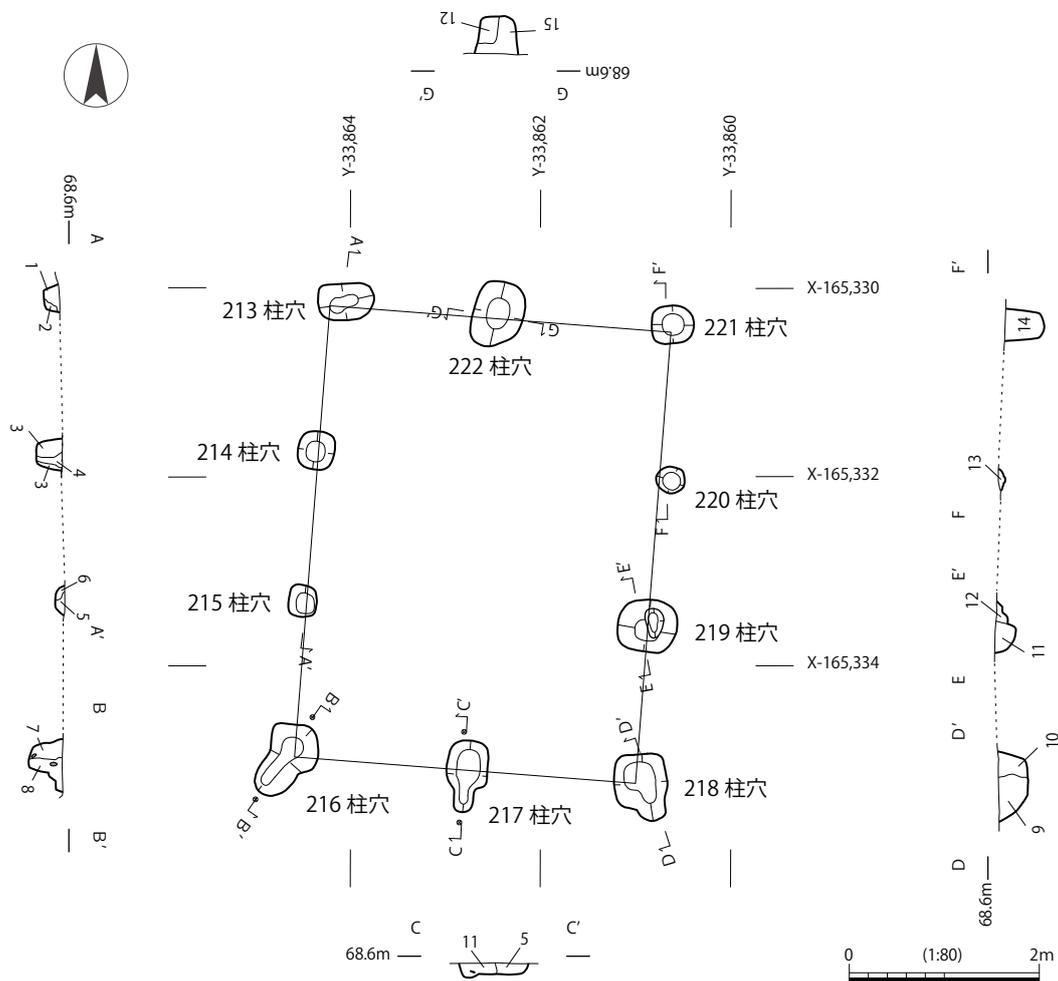
じりで中から極粗砂粒を含むブロックを含む。他の建物に比べ、基盤層のブロックを多く含むのが特徴である。

193 柱穴からは、13 世紀後半に考えられる図 29 - 3 の瓦器碗が出土しているほか、他の柱穴からも土師皿片や瓦器碗片が出土している。



- 1 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中～極粗粒砂含む  
10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック多く含む 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり（基盤層）のブロック僅かに含む（抜取り）
- 2 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり（基盤層）のブロックに 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中～極粗粒砂含むブロック含む（掘方）
- 3 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中～極粗粒砂含むに 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック若干含む（抜取り）
- 4 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中～極粗粒砂含むに  
10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックと若干含むと 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり（基盤層）のブロック含む中～極粗粒砂多く含む（抜取り）
- 5 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックと若干含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり（基盤層）のブロック含む（掘方）
- 6 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中～極粗粒砂含むに  
10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック含む 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり（基盤層）のブロック下部に若干含む
- 7 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり（基盤層）のブロックに 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック含む
- 8 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中～極粗粒砂含むに 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック含む
- 9 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり（基盤層）のブロックに 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック多く含む
- 10 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックに 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中～極粗粒砂のブロック若干含む（抜取り）
- 11 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中～極粗粒砂含むに  
10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック多く含むと 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり（基盤層）のブロック含む（抜取り）
- 12 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中～極粗粒砂含むに  
10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり（基盤層）のブロック含む 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック若干含む（抜取り）

図 27 掘立柱建物 10



- 1 10YR5/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じりのブロック若干含む (基盤層) (抜取り)
- 2 10YR5/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック含む
- 3 10YR5/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック含むと  
10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じりのブロック若干含む (掘方)
- 4 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含む (柱痕跡)
- 5 10YR5/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じりのブロック含む
- 6 10YR5/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むと 10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じりのブロック土
- 7 10YR5/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じりのブロック若干含むと 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりの  
ブロック若干含む (掘方)
- 8 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むに 10YR5/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むと 10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じりの  
ブロック若干含む (抜取り)
- 9 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むに 10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じりのブロック若干含むと  
10YR5/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むのブロックをやや含む (抜取り)
- 10 10YR5/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックを含む上部に 10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じりの  
ブロックを多く含む (掘方)
- 11 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むに 10YR5/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むと 10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じりの  
ブロック若干含む (抜取り)
- 12 10YR5/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むと 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックを含む  
10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じりのブロックを若干含む (掘方)
- 13 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むに 10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じりのブロックを含む (抜取り)
- 14 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むに 10YR5/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂のブロックを含む  
10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じりのブロック (基盤層) 若干含む
- 15 10YR5/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じりのブロックと 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂の  
ブロック含む (抜取り)

図 28 掘立柱建物 11

掘立柱建物 11 (図 16、28 写真 17-1~5)

掘立柱建物 10 の東側約 5 m で検出した側柱建物で、掘立柱建物 10 と同じく北で約 5 度東へ振れる桁行 3 間梁行 2 間の東西棟である。桁行の柱間は南から 1.7 m、1.6 m、1.5 m、梁行の柱間は 1.8 m 等間で柱筋は揃う。桁行の延長は 4.8 m、梁行の延長は 3.6 m で、建物の面積は約 17 m<sup>2</sup>を測る。

柱穴には抜取りがみられ、南の梁行の柱穴には楕円形の抜取りもみられる。柱穴の平面形は抜取りのため不整形を呈し、大きさも不揃いである。深さも 0.8 ~ 0.4 m と揃っていない。抜取り埋土はおおむね褐灰色から灰黄褐色極細粒砂シルト混じりで中から粗砂粒を含み、基盤層の明黄褐色シルト細粒砂混じりのブロックを含む。掘方埋土はおおむね褐灰色細粒砂シルト混じりで中から粗砂粒を含み、基盤層の明黄褐色シルト細粒砂混じりのブロックと、褐灰色シルト細粒砂混じりのブロックを含む。全体に抜取りには基盤層のブロックが多く混じる。

柱穴からは土師器片や須恵器片が出土しているが、時期の特定できるものはない。また、瓦器は出土しておらず、建物がほぼ正方位に向くことから、古代に帰属する建物と考えたい。

掘立柱建物 12 (図 16、30 写真 18-1~5)

掘立柱建物 10 と掘立柱建物 11 の南で検出した側柱建物で、北で約 8 度東へ振れる桁行 2 間梁行 2 間の東西棟である。桁行の柱間は東西で異なり、東側は南から 1.9 m、1.8 m、西側で南から 1.0 m、2.7 m と西側の柱間の北が広い。梁行は妻柱筋は揃うものの、柱間は東から 1.4 m、1.1 m とやや西に寄る。桁行の延長は 3.7 m、梁行の延長は 2.5 m で、建物の面積は約 9 m<sup>2</sup>を測る。

柱穴の平面形は抜取りのため不整形を呈し、大きさも不揃いである。深さも 0.12 ~ 0.5 m と揃っていない。抜取り埋土はおおむね灰黄褐色極細粒砂シルト混じりで中から粗砂粒を含み、基盤層の明黄褐色シルト細粒砂混じりで中から粗砂粒を含むブロックを含む。また、焼土ブロックを含む柱穴もみられる。掘方埋土はおおむね褐灰色シルト細粒砂混じりで中粒砂を含むブロックに、基盤層の明黄褐色シルト細粒砂混じりで中から粗砂粒を含むブロックを含む。全体に抜取りに基盤層のブロックが多く混じる。

柱穴からは土師器や須恵器片が出土しているが、時期を特定できる遺物はない。瓦器は出土しておらず、建物がほぼ正方位に向くことから、古代に帰属する建物と考えたい。

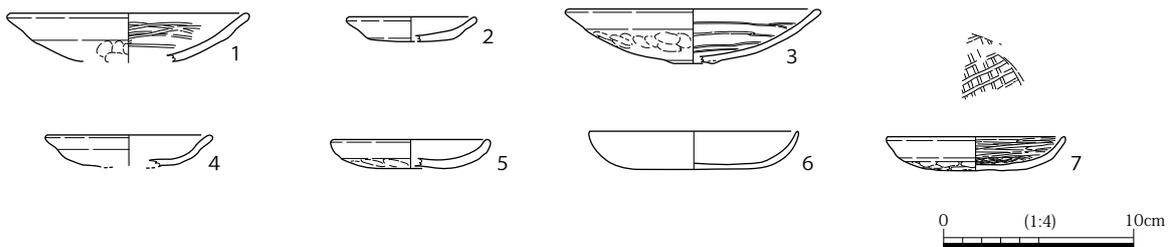


図 29 掘立柱建物 9・10・13・17・27 出土遺物

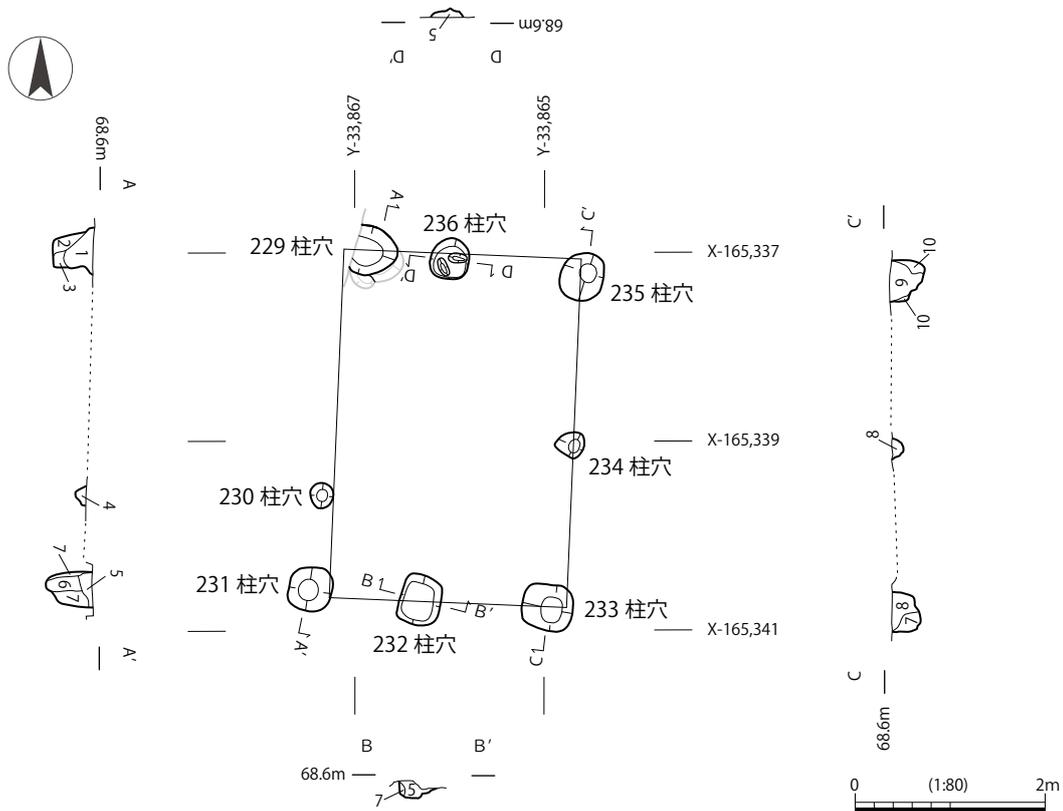
掘立柱建物 13 (図 16、29 - 6、31 写真 19 - 1 ~ 5、35 - 6)

掘立柱建物 11 の南で検出しており、掘立柱建物 17 と重複している。掘立柱建物 13 の 248 柱穴と、掘立柱建物 17 の 262 柱穴の重複関係から、掘立柱建物 13 (248 柱穴) → 掘立柱建物 17 (262 柱穴) の順である。建物は、2 間 2 間の総柱建物で北で約 4 度東へ振れる。

柱間は 1.8 m 等間で柱筋は綺麗に揃う。東西と南北の延長は 3.6 m で、建物は正方形を呈する。面積は 13 m<sup>2</sup> を測る。

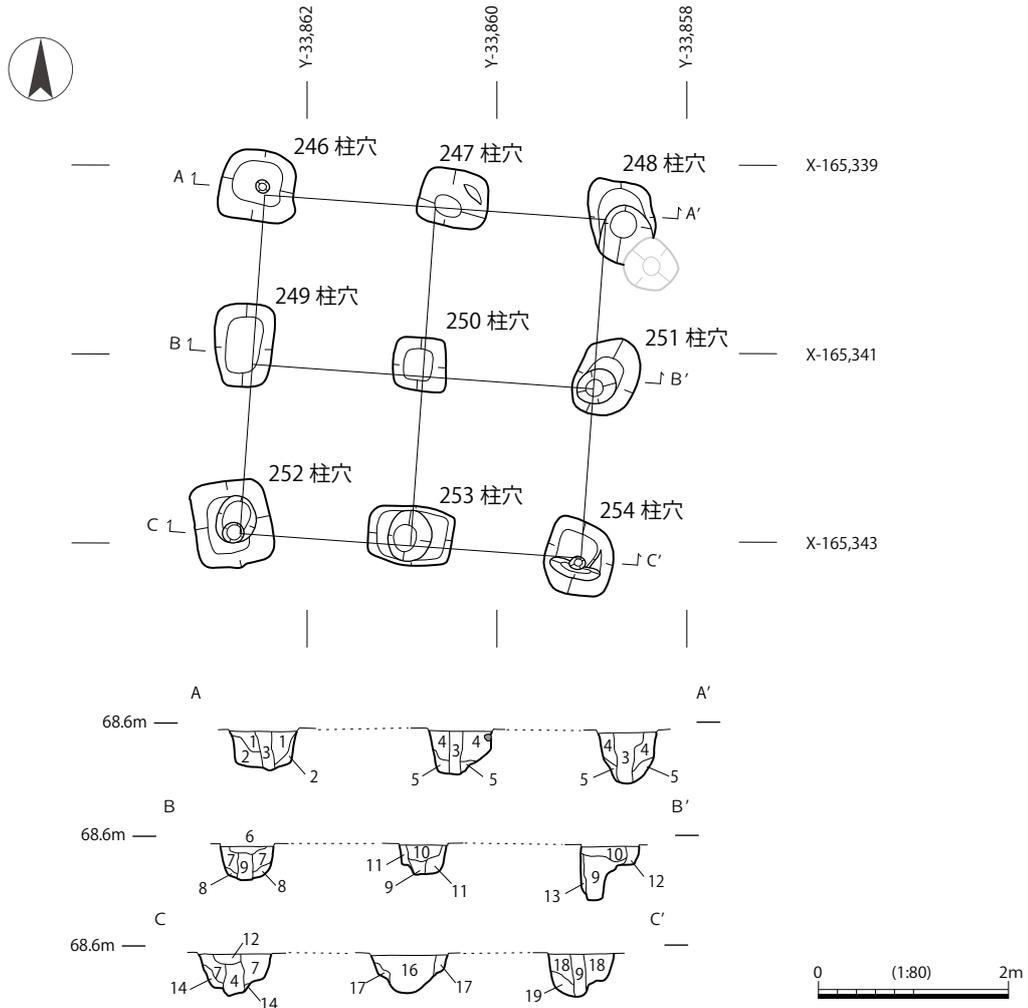
抜取りのみられる 235 柱穴以外の柱穴には、柱痕跡が確認できる。平面形は隅丸方形を呈する。深さは 251 柱穴のみが 0.6 m と深いが、他は 0.4 m 前後を測り、底の深さは揃う。以下に述べる掘方の埋土の様子からも、しっかりと柱を埋めている状況がみてとれる。

抜取り埋土はおおむね基盤層の明黄褐色砂礫ブロックとシルトに、灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から粗粒砂細礫多く含むブロックと、褐灰色シルト中粒砂を含むブロックを含む。掘方埋土は 2 層に区分できるものもあり、しっかりと埋められている事が分かる。おおむね上層は灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から粗粒砂細礫多く含み、褐灰色シルト中粒砂を含むブロックと、基盤層の明黄褐色砂礫ブ



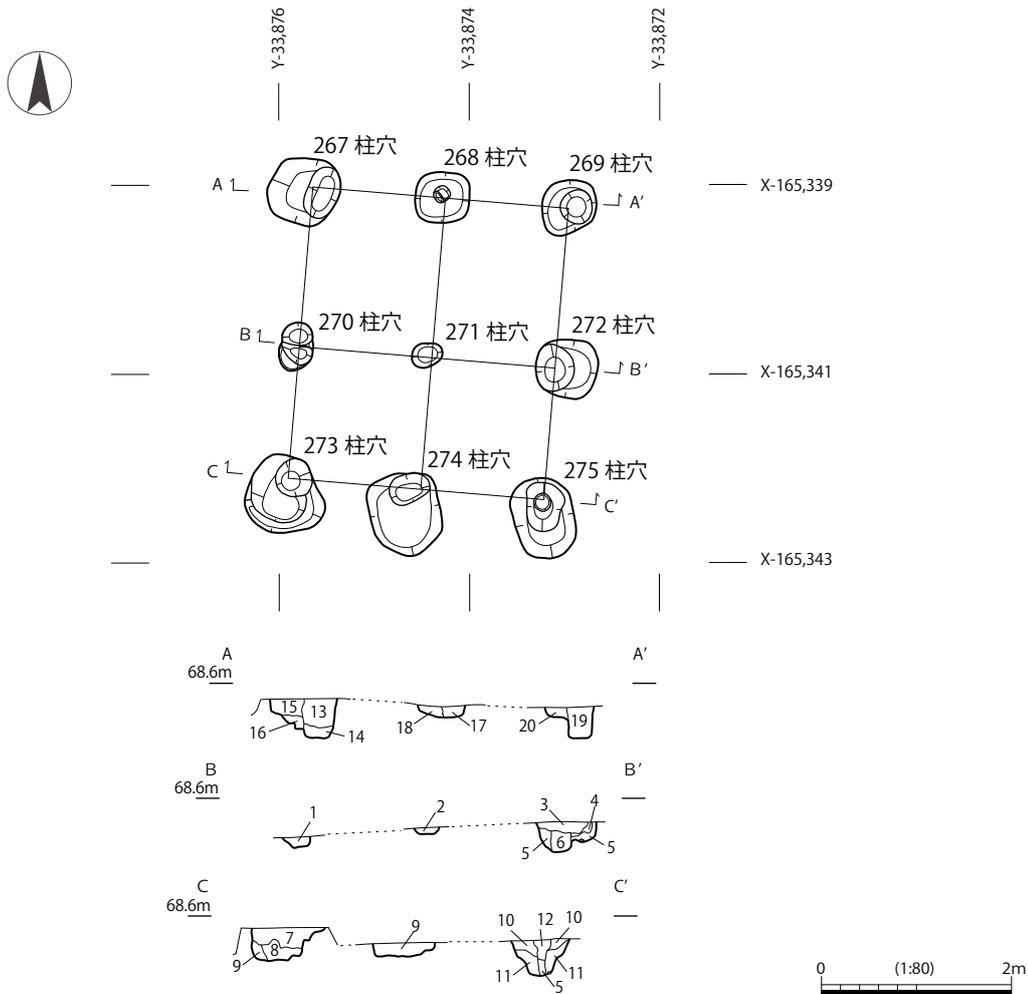
- 1 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含む焼土含む 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり中～粗粒砂含む (基盤層) のブロック多く含む (抜取り)
- 2 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じり中粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり中～粗粒砂含む (基盤層) のブロック若干含む (掘方)
- 3 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じり中粒砂含むに 10YR5/1 褐灰 シルトブロック含む  
10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり中～粗粒砂含む (基盤層) のブロック若干含む (柱痕跡)
- 4 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含む焼土含むに 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じり中粒砂含むのブロック含む
- 5 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含む
- 6 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR5/1 褐灰 シルトブロックやや含む
- 7 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じり中粒砂含む
- 8 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり中～粗粒砂含む (基盤層) のブロック含む
- 9 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり中～粗粒砂含む (基盤層) のブロック若干含む
- 10 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じり中粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり中～粗粒砂含む (基盤層) のブロック若干含む

図 30 掘立柱建物 12



- 1 10YR6/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂細礫多く含む 10YR6/1 褐灰 シルト中粒砂含むブロック多く含む  
10YR7/6 明黄褐 砂礫ブロックとシルト（基盤層）含む（掘方）
- 2 10YR7/6 明黄褐 砂礫ブロックとシルト（基盤層）含むに 10YR6/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂細礫のブロック含む（掘方）
- 3 10YR6/3 にぶい黄橙 細粒砂混じり中～粗粒砂若干含む（柱痕跡）
- 4 10YR6/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂細礫多く含む 10YR6/1 褐灰 シルト中粒砂含むブロック含む  
10YR7/6 明黄褐 砂礫ブロックとシルト（基盤層）のブロック若干含む（掘方）
- 5 10YR6/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂細礫多く含むに 10YR6/1 褐灰 シルト中粒砂含むブロック多く含む  
10YR7/6 明黄褐 砂礫ブロックとシルト（基盤層）のブロック若干含む（掘方）
- 6 10YR6/1 褐灰 シルト中粒砂含むブロック多く含むと 10YR6/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂細礫多く含む
- 7 10YR6/1 褐灰 シルト中粒砂含むブロック多く含むと 10YR6/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂細礫多く含むと  
10YR7/6 明黄褐 砂礫ブロックとシルト（基盤層）のブロック土（掘方）
- 8 10YR6/1 褐灰 シルト中粒砂含むブロック多く含むと 10YR6/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂細礫多く含むと  
10YR7/6 明黄褐 砂礫ブロックとシルト（基盤層）のブロック土で砂礫を多く含む（掘方）
- 9 10YR7/2 にぶい黄橙 シルト砂礫含む（柱痕跡）
- 10 10YR7/6 明黄褐 砂礫ブロックとシルト（基盤層）含む（シルト）に 10YR6/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂細礫多く含むと  
10YR6/1 褐灰 シルト中粒砂含むブロック含む（抜取り）
- 11 10YR7/6 明黄褐 砂礫ブロックとシルト（基盤層）含む（シルト）に 10YR6/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂細礫多く含むと  
10YR6/1 褐灰 シルト中粒砂含むブロック僅かに含む（掘方）
- 12 10YR6/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂細礫多く含むに 10YR7/6 明黄褐 砂礫ブロックとシルト（基盤層）のブロック僅かに含む（抜取り）
- 13 10YR7/6 明黄褐 砂礫ブロックとシルト（基盤層）に 10YR6/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂細礫多く含むのブロック僅かに含む（掘方）
- 14 10YR7/6 明黄褐 砂礫ブロックとシルト（基盤層）に 10YR6/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂細礫多く含むのブロック若干含む（掘方）
- 15 10YR6/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂細礫多く含む 10YR6/1 褐灰 シルト中粒砂含むブロック含む（抜取り）
- 16 10YR6/1 褐灰 シルト中粒砂含むブロック多く含むと 10YR6/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂細礫多く含むと  
10YR7/6 明黄褐 砂礫ブロックとシルト（基盤層）のブロック土上部に 10YR7/6 明黄褐 砂礫ブロックとシルト（基盤層）のブロック多く含む（抜取り）
- 17 10YR7/6 明黄褐 砂礫ブロックとシルト（基盤層）に 10YR6/1 褐灰 シルト中粒砂含むブロック多若干含む（掘方）
- 18 10YR7/6 明黄褐 砂礫ブロックとシルト（基盤層）含むに 10YR6/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂細礫多く含むと  
10YR6/1 褐灰 シルト中粒砂含むブロック含む
- 19 10YR6/1 褐灰 シルト中粒砂含むブロック多く含むと 10YR7/6 明黄褐 砂礫ブロックとシルト（基盤層）のブロック土

図 31 掘立柱建物 13



- 1 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック若干含む
- 2 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック若干含む 炭化物含む
- 3 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック僅かに含む (抜取り)
- 4 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロックに 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂のブロック僅かに含む (抜取り)
- 5 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中粒砂含むに 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック含む (掘方)
- 6 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じりに 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック含む (抜取り)
- 7 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中粒砂含むに 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むと 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック若干含む 10YR5/1 褐灰 シルトブロック含む
- 8 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中粒砂含むに 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むブロック含む 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック僅かに含む
- 9 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中粒砂含むに 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック含む 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂若干含む
- 10 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むと 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中粒砂含むと 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック土 細礫多く含む (抜取り)
- 11 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むと 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中粒砂含むと 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック土 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むブロック多く含む (抜取り)
- 12 10YR5/1 褐灰 細粒砂シルト混じり炭化物含む 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック僅かに含む (抜取り)
- 13 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むと 10YR4/2 灰黄褐 シルト混じり中粒砂含むと 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック土 (抜取り)
- 14 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) に 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むと 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック含む (抜取り)
- 15 10YR4/2 灰黄褐 シルト混じり中粒砂含むと 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック土に 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むブロック含む (抜取り)
- 16 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) に 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むブロック含む (抜取り)
- 17 10YR4/2 灰黄褐 シルト混じり中粒砂含むと 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック土 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むブロック若干含む (抜取り)
- 18 10YR4/2 灰黄褐 シルト混じり中粒砂含むに 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) と 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むブロック含む (掘方)
- 19 10YR4/2 灰黄褐 シルト混じり中粒砂含むに 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むブロック含む 10YR7/8 黄橙 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック含む (抜取り)
- 20 10YR4/2 灰黄褐 シルト混じり中粒砂含むに 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むブロック含む (掘方)

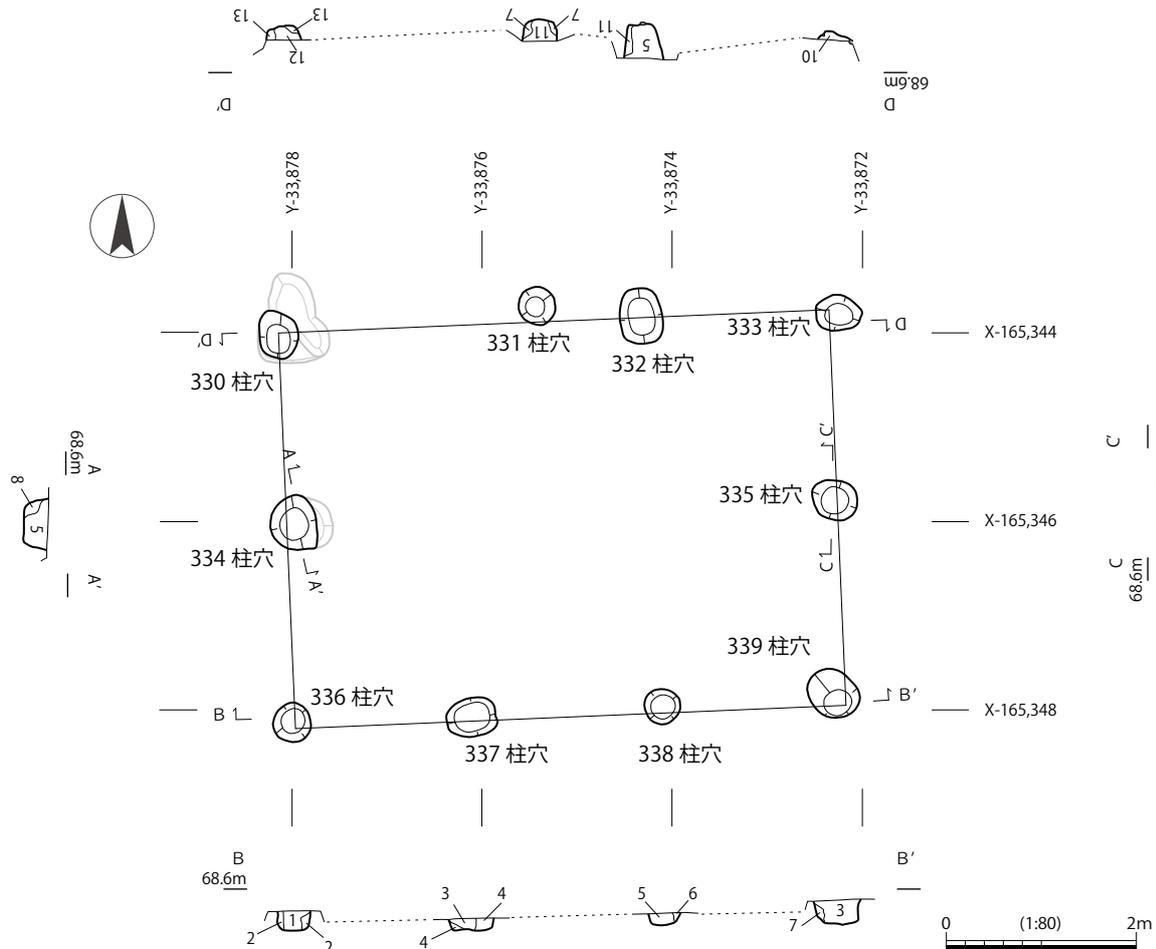
図 32 掘立柱建物 14

ロックとシルトのブロックを若干含む。下層は灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から粗粒砂細礫多く含む、褐灰色シルト中粒砂を含むブロックを多く含む。

柱穴からは8世紀後半に考えられる土師器皿または杯Cの口縁部片が出土しているほか、図29-6の土師器皿が249柱穴から出土している。瓦器は出土していない。

**掘立柱建物 14 (図16、32 写真20-1~5)**

掘立柱建物13の西約10mに位置する2間2間の総柱建物で、北で東へ約5度振れる。柱間は東西方向が東から1.3m、1.4m、南北方向が南から1.4m、1.7mを測る。柱間は等間ではないが、柱筋



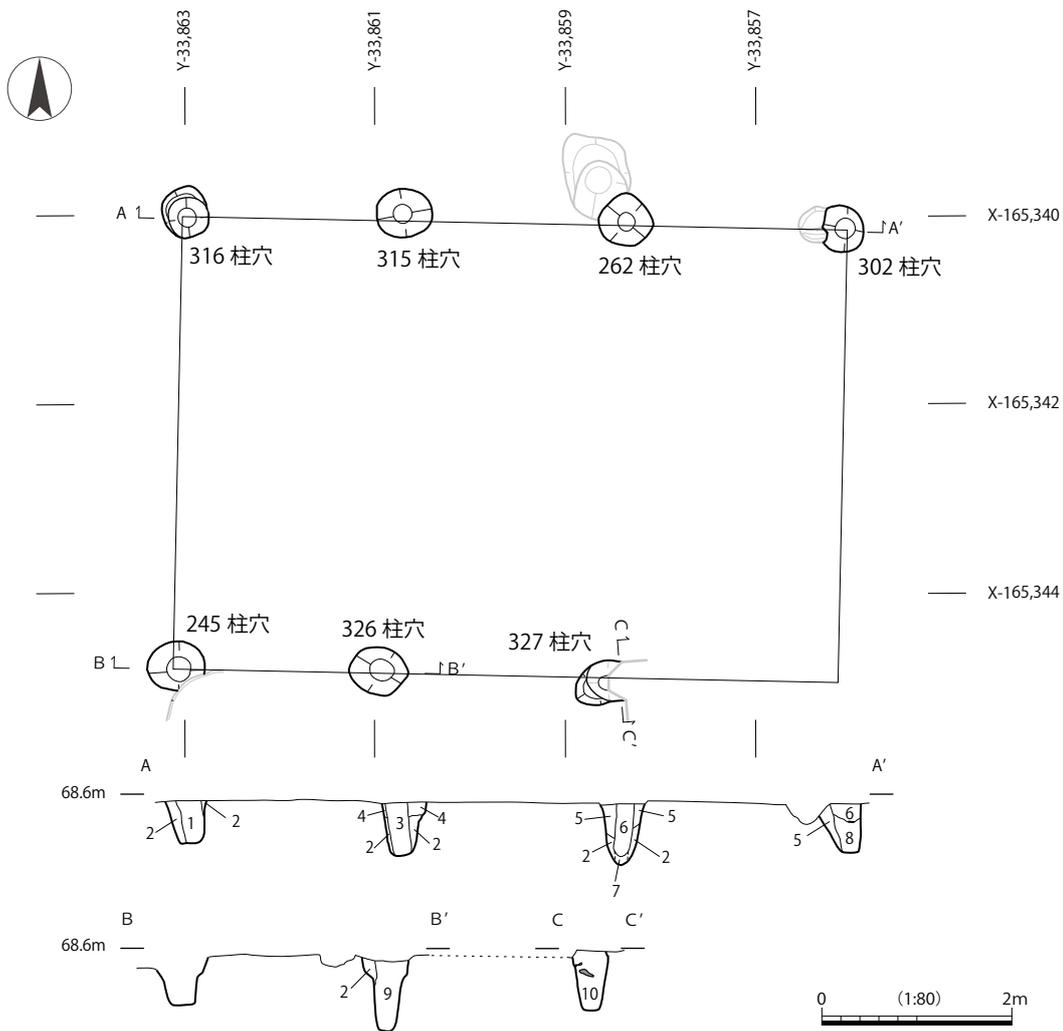
- 1 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含む 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック僅かに含む (抜取り)
- 2 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック若干含む  
10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック僅かに含む (抜取り)
- 3 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含む (抜取り)
- 4 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック含む  
10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック若干含む (掘方)
- 5 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック含む (抜取り)
- 6 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックと 10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック土  
10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むブロック含む
- 7 10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロックに 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック含む (掘方)
- 8 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックと  
10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック含む (掘方)
- 9 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック若干含む (掘方)
- 10 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含む
- 11 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックと 10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック土 (掘方)
- 12 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック含む
- 13 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロックに 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むブロック若干含む  
10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック僅かに含む

図33 掘立柱建物15

は揃う。東西延長は 2.7 m、南北延長は 3.1 m で、建物の面積は約 8 m<sup>2</sup> を測る。

柱穴には抜取りがみられ、平面形は不整形で大きさも不揃いである。深さも 0.08 ～ 0.4 m と不揃いであるが、隅柱がやや深く、しっかりとした掘方を持つ傾向がみられる。抜取り埋土はおおむね基盤層の黄橙色シルト細粒砂混じりのブロックに、褐灰色細粒砂シルト混じりで中から極粗粒砂のブロックを含む。掘方の埋土はおおむね灰黄褐色シルト細粒砂混じりで中粒砂を含み、基盤層の黄橙色シルト細粒砂混じりのブロックを含む。

柱穴からは土師器や須恵器片が出土しているが、瓦器はみられない。建物の方向が正方位であり、瓦器も出土していないことから、古代に帰属する建物と考えたい。



- 1 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含む 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) を若干含む炭化物・焼土含む (抜取り)
- 2 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロックを含む
- 3 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに炭化物・焼土含む下部に 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック含む (抜取り)
- 4 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) に 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むのブロック含む (掘方)
- 5 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むと 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック土 (掘方)
- 6 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに炭化物・焼土含む 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック若干含む
- 7 10YR6/1 褐灰 シルト細～中粒砂混じり (柱痕跡?)
- 8 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック含む炭化物・焼土含む (抜取り)
- 9 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに炭化物・焼土含むと 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック含む (抜取り)
- 10 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含む

図 34 掘立柱建物 17

掘立柱建物 15 (図 16、33 写真 21 - 1 ~ 5、35 - 10)

掘立柱建物 14 の南に位置する側柱建物で、北で約 3 度西へ振れる桁行 3 間梁行 2 間の東西棟である。桁行の柱間は南側と北側で異なる。南側は東から 1.9 m、2.1 m、1.8 m で、北側は東から 1.9 m、1.2 m、2.7 m と西側の一間が広い。梁行の柱間は 2.1 m 等間で妻柱筋も綺麗に揃う。桁行延長 5.8 m、梁行延長は 4.2 m で、建物の面積は約 23 m<sup>2</sup>を測る。

柱穴に抜取りがみられ、平面形は不整円形を呈する。大きさは不揃いである。深さも 0.1 ~ 0.35 m と不揃いであるが、妻柱が比較的深くしっかりとした掘方を持つ傾向がみられる。抜取り埋土はおおむね灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から粗粒砂を含む。掘方埋土は灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から粗粒砂を含み、褐灰色シルト細粒砂混じりのブロックと基盤層の明黄褐色シルト細粒砂混じりのブロックを含む。

柱穴からは土師器片や須恵器片が出土しているが時期を特定できるものはない。出土遺物に瓦器片がみられず、建物の向きも正方位であることから、古代に属する建物と考えたい。

掘立柱建物 17 (図 16、29 - 4、34 写真 22 - 1 ~ 5、35 - 4・11・12)

掘立柱建物 13 と重複する側柱建物で、掘立柱建物 13 より新しい。建物は北で約 2 度東へ振れる、桁行 3 間梁行 1 間の梁間 1 間型の東西棟である。桁行の柱間は東から 2.4 m、2.3 m、2.3 m で、柱筋は綺麗に揃う。梁行の柱間は 4.8 m である。桁行延長 7.0 m、梁行延長は 4.8 m で、建物の面積は約 34 m<sup>2</sup>を測る。

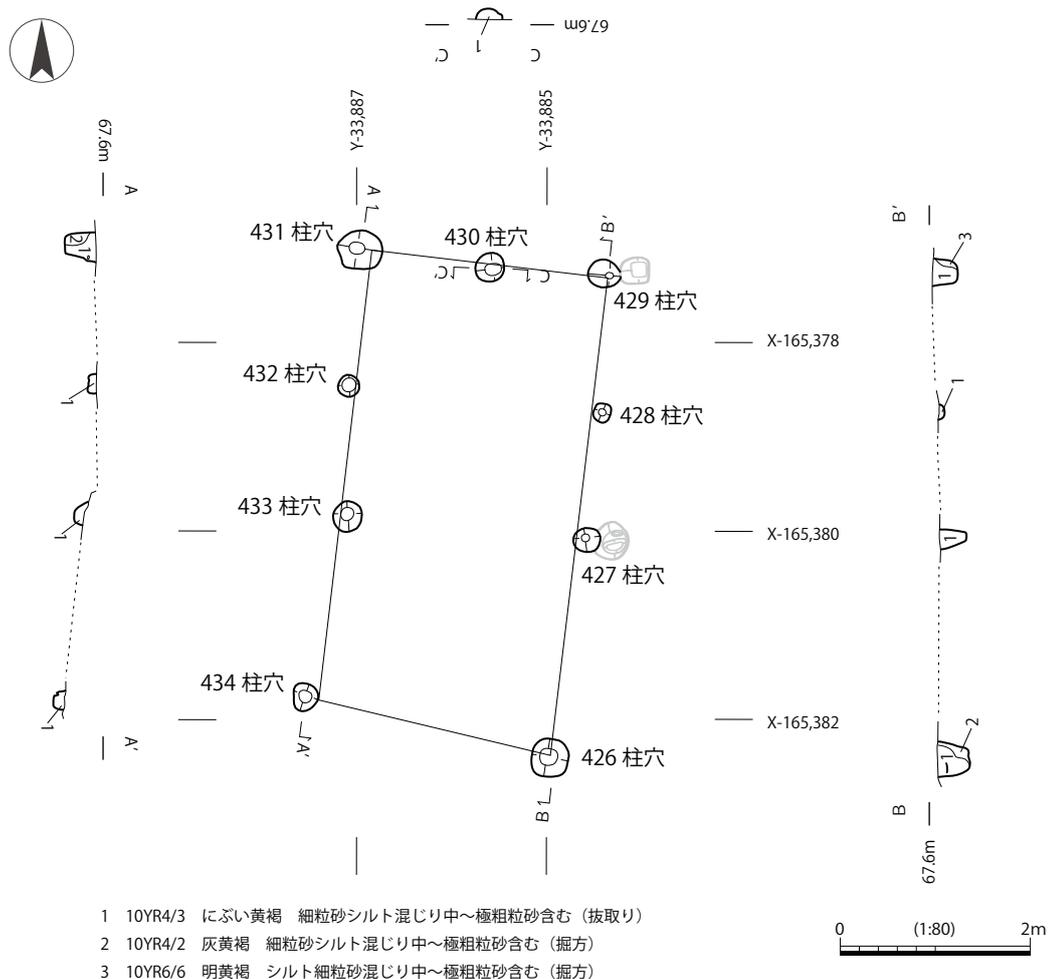


図 35 掘立柱建物 18

柱痕跡がみられる 262 柱穴以外には抜取りがみられるが、平面形は円形に近い隅丸方形を指向すると思われる。大きさは直径 0.5 ～ 0.6 m でほぼ揃う。深さは、総じて深く 0.45 ～ 0.75 m を測る。抜取り埋土はおおむね灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から粗粒砂を含み、基盤層の明黄褐色シルト細粒砂混じりを若干含む。また、炭化物と焼土を含むことから、建物が焼失した可能性が考えられる。掘方埋土はおおむね灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から粗粒砂と、基盤層の明黄褐色シルト細粒砂混じりのブロック土。

柱穴からは土師器や須恵器、瓦器片が出土しているほか、図化できたものに 14 世紀前半に考えられる図 29 - 4 の土師器皿がある。

### 掘立柱建物 18 (図 17、35 写真 23 - 1・2)

3 区のほぼ中央で検出した側柱建物で、北で約 7 度東へ振れる桁行 3 間梁行 2 間の南北棟である。桁行の柱間は東側と西側で若干異なり、東側は南から 2.3 m、1.3 m、1.5 m で、西側は南から 2.0 m、1.3 m、2.5 m と、東・西側とも南の間が広い。梁行の柱間は北側で東から 1.2 m、1.3 m を測る。南側の妻柱は、耕作に伴う削平のため失われていると考えられる。

桁行延長は東側が 5.1 m、西側が 4.8 m、梁行の延長は 2.5 m と、建物の平面形は歪である。建物の面積は約 12 m<sup>2</sup> を測る。

柱穴には抜取りがみられ、平面形は不整円形を呈する。大きさは不揃いで、深さも 0.08 ～ 0.34 m

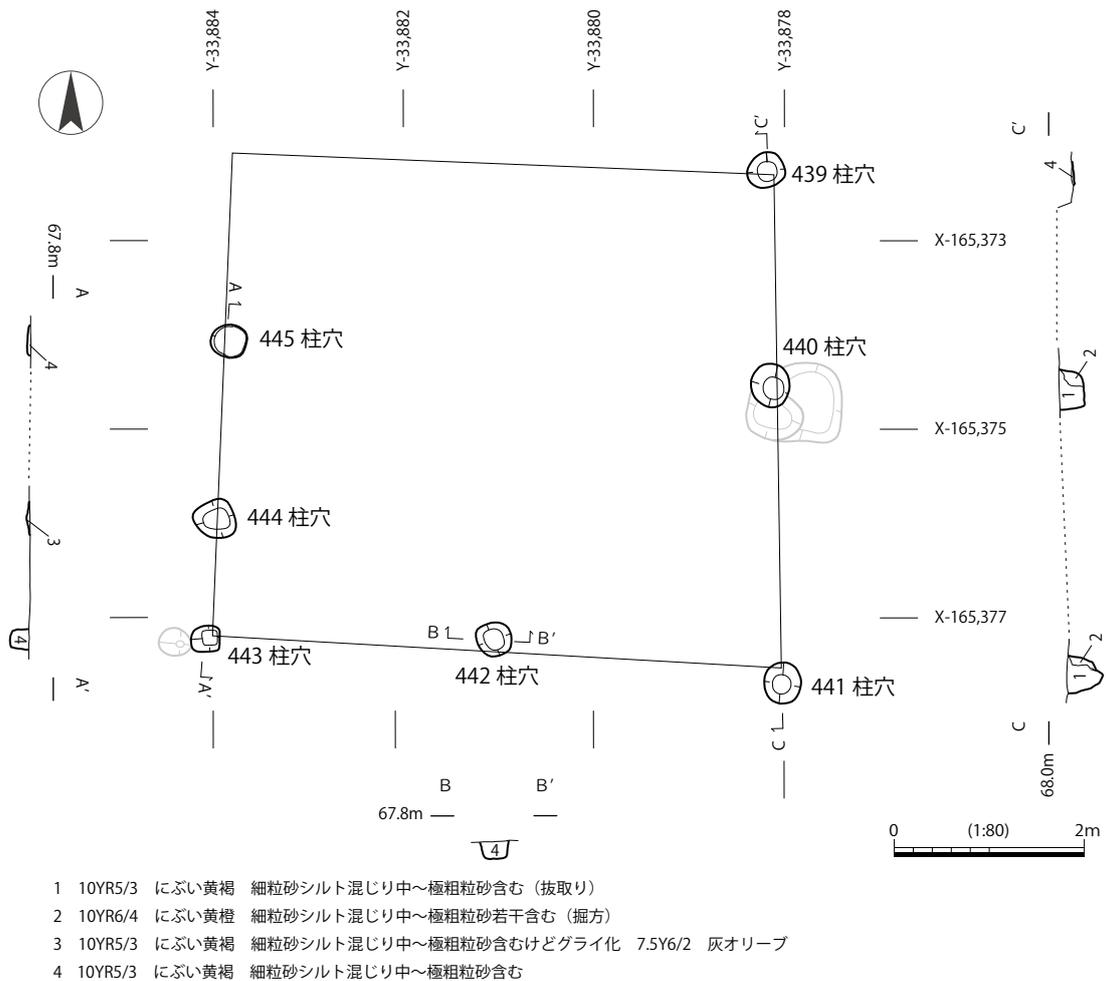


図 36 掘立柱建物 19

と不揃いである。抜き埋土はおおむねにぶい黄褐色細粒砂シルト混じりで中から極粗粒砂を含む。掘方埋土は灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から極粗粒砂を含むと、明黄褐色シルト細粒砂混じりで中から極粗粒砂を含むである。

柱穴からは土師器片や須恵器片のほか、13世紀に考えられる瓦器片が出土している。

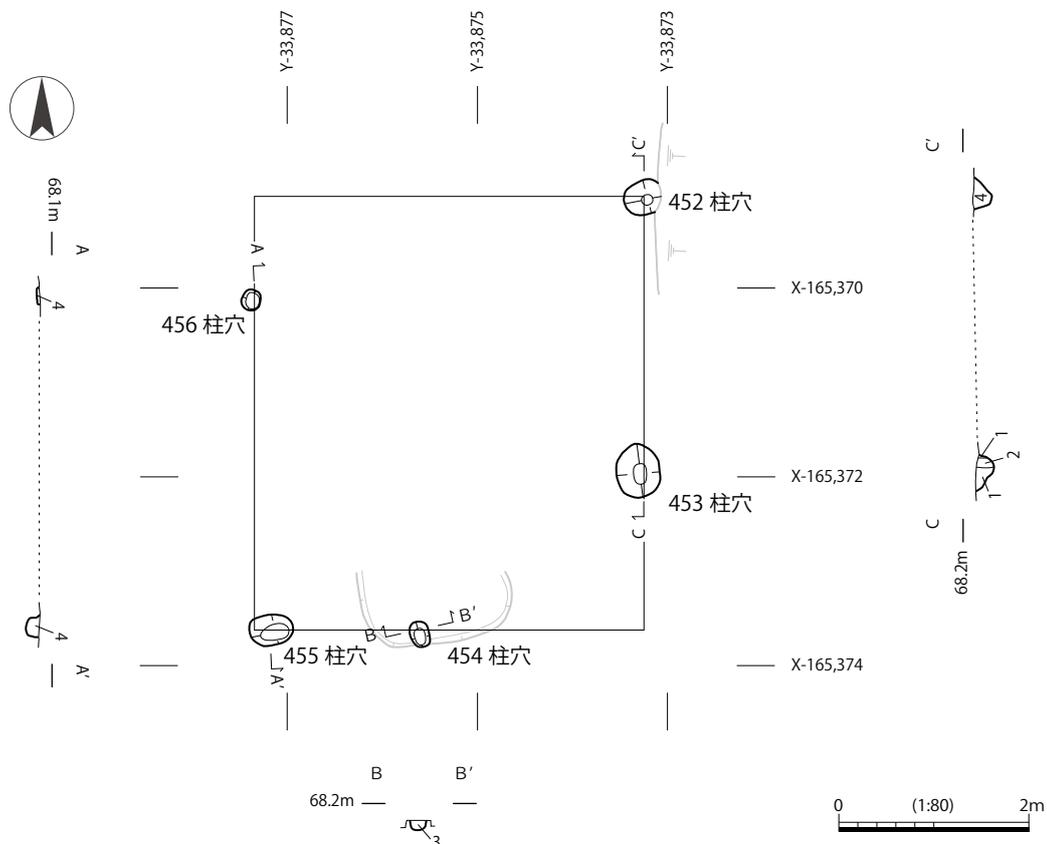
#### 掘立柱建物 19 (図 17、36 写真 23-3・4)

掘立柱建物 18 の北東で検出した側柱建物で、北で約 2 度東へ振れる。柱穴は削平のためいくつか失われているが、東西延長南側 6.0 m、北側 5.7 m、南北延長 5.2 m のやや歪んだ平面形の建物に復元できる。面積は約 30 m<sup>2</sup> を測る。東西方向南側の柱筋は 2 間で、3.0 m 等間。北側は不明である。南北方向東側の柱筋は 2 間で、南から 3.0 m、2.2 m。西側の柱筋は 3 間で、南から 1.3 m、1.8 m、2.0 m (復元) である。440・441 柱穴には抜き取りがみられたが、他は不明である。平面形は不整円形を呈し、大きさは不揃いである。深さも 0.04 ~ 0.4 m と不揃いである。抜き埋土はにぶい黄褐色細粒砂シルト混じりで中から極粗粒砂を含む。掘方の埋土はにぶい黄褐色細粒砂シルト混じりで中から極粗粒砂を若干含む。

柱穴からは土師器片や須恵器片、瓦器片が出土しており、円形で小振りな柱穴から考えて中世に帰属する建物と考えられる。

#### 掘立柱建物 20 (図 17、37 写真 23-5・6)

掘立柱建物 19 の北東で検出した、北で約 1 度東へ振れる側柱建物である。柱穴は削平のためいくつか



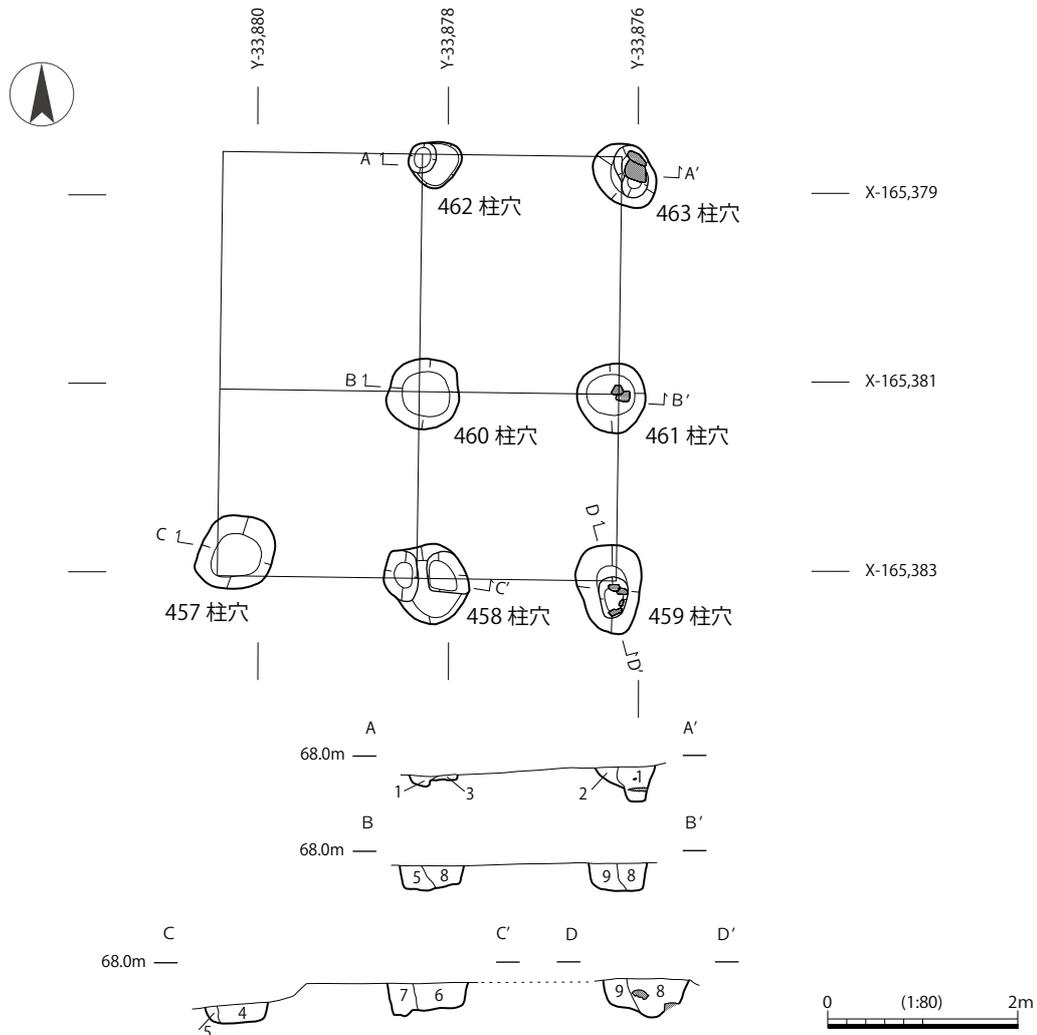
- 1 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む (掘方)
- 2 10YR3/1 黒褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むのブロック含む (柱痕跡)
- 3 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR7/1 灰白 中粒砂～細礫シルト混じり (基盤層) のブロック含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む

図 37 掘立柱建物 20

か失われているが、東西延長 4.1 m、南北延長 4.6 m の建物に復元でき、建物の面積は約 19 m<sup>2</sup> である。

検出した東西方向の柱筋は南側が 2 間で、柱間は東から 2.3 m、1.8 m。北側は不明である。南北方向の柱筋は、東側が 2 間で南から 1.6 m（復元）、3.0 m。西側が南から 3.5 m、1.1 m（復元）である。

平面形は不整形円形を呈し、大きさは不揃いである。深さも 0.03 ~ 0.2 m と浅く、かつ不揃いである。453 柱穴では柱痕跡がみられ、掘方の埋土は灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から極粗粒砂を含む。他の柱穴の埋土はおおむね灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から極粗粒砂を含み、基盤層の灰白中粒砂



- 1 10YR3/1 黒褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むと 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むと  
10YR5/6 黄褐 シルト細粒砂混じり中～粗粒砂含む（基盤層）のブロック土（抜取り）
- 2 10YR5/6 黄褐 シルト細粒砂混じり中～粗粒砂含む（基盤層）に 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むのブロック含む（掘方）
- 3 10YR5/6 黄褐 シルト細粒砂混じり中～粗粒砂含む（基盤層）に若干 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むブロック含む（掘方）
- 4 10YR3/1 黒褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むブロックと  
10YR5/6 黄褐 シルト細粒砂混じり中～粗粒砂含む（基盤層）のブロック若干含む（抜取り）
- 5 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR5/6 黄褐 シルト細粒砂混じり中～粗粒砂含む（基盤層）のブロック含む（掘方）
- 6 10YR3/1 黒褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むのブロック含む（抜取り）
- 7 10YR3/1 黒褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むのブロック多く含む（掘方）
- 8 10YR3/1 黒褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むのブロック含む  
10YR5/6 黄褐 シルト細粒砂混じり中～粗粒砂含む（基盤層）のブロック若干含む（抜取り）
- 9 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むと 10YR5/6 黄褐 シルト細粒砂混じり中～粗粒砂含む（基盤層）のブロック土（掘方）
- 10 10YR3/1 黒褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むと 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むと  
10YR5/6 黄褐 シルト細粒砂混じり中～粗粒砂含む（基盤層）のブロック含む 10YR5/3 にぶい黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含む（掘方）

図 38 掘立柱建物 21

から細礫シルト混じりのブロックを含む。

柱穴からの出土遺物はなく、時期は不明であるが、掘立柱建物 19 と同じく中世段階の建物であろう。  
**掘立柱建物 21** (図 17、38 写真 24-1~5)

掘立柱建物 19 の南に位置する 2 間 2 間の総柱建物で、北で約 4 度東へ振れる。西側の柱穴 2 基は検出できなかった。

柱間は東西方向が 2.1 m 等間 (復元)、南北方向が南から 2.1 m、2.4 m と若干北側の一間が広いが、柱筋は綺麗に揃う。東西延長 4.2 m、南北延長は 4.5 m で、建物の面積は約 19 m<sup>2</sup> を測る。

柱穴に抜取りがみられ、平面形は不整形円形を呈する。深さは、周辺の掘立柱建物に比べ深く、0.1 ~ 0.4 m を測る。抜取り埋土はおおむね黒褐色細粒砂シルト混じりで中から極粗粒砂を含むと、灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から極粗粒砂含むと、基盤層の黄褐色シルト細粒砂混じりで中から粗粒砂含むのブロック土。掘方埋土はおおむね基盤層の黄褐色シルト細粒砂混じりで中から粗粒砂を含み、灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から極粗粒砂を含むブロックを含む。

柱穴からは土師器片や須恵器片が出土しており、図化はできなかったが 14 世紀に考えられる土師器

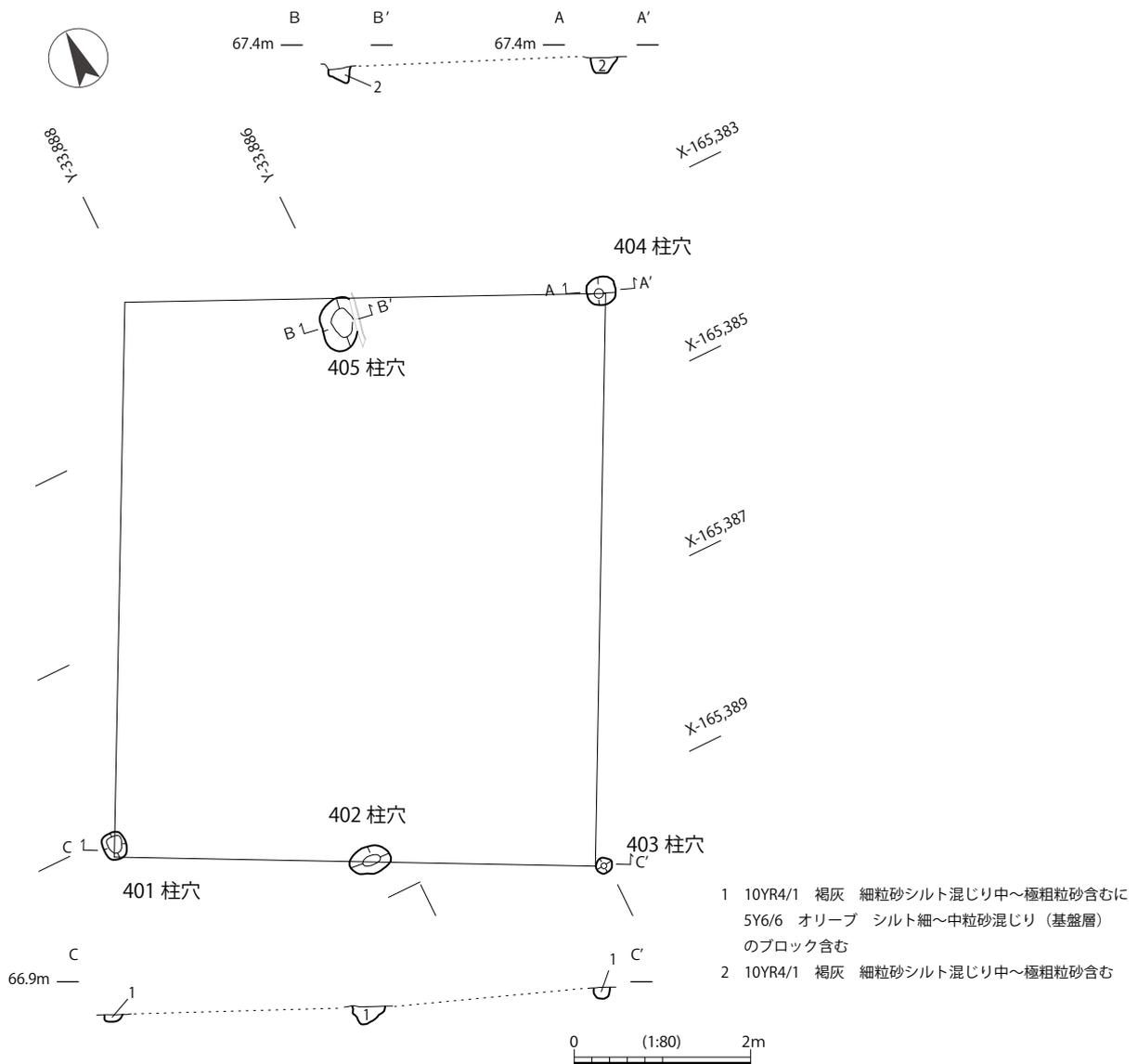


図 39 掘立柱建物 22

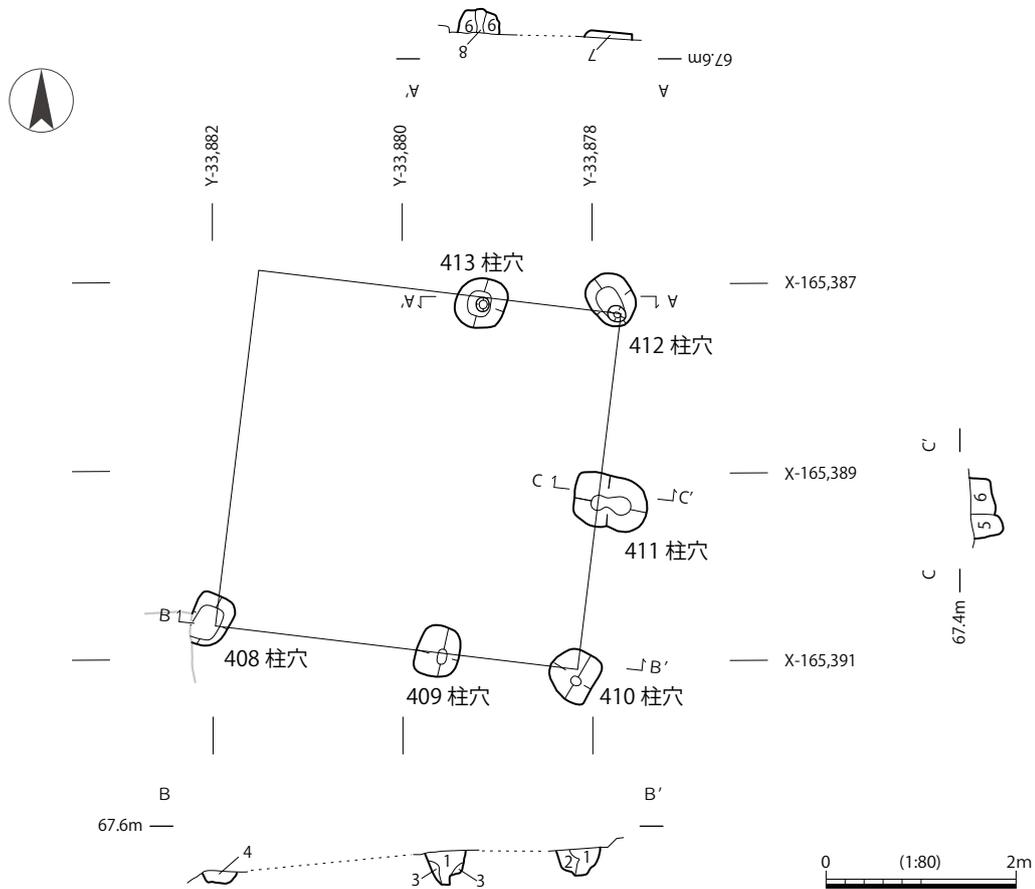
皿片がみられる。

掘立柱建物 22 (図 17、39 写真 23 - 7・8)

掘立柱建物 18 の南に位置する、北で約 27 度東へ振れる側柱建物である。柱穴は削平のためいくつか失われているが、東西延長 5.4 m、南北延長 6.5 m の建物に復元でき、建物の面積は約 35 m<sup>2</sup>を測る。検出した東西方向の南側の柱筋は 2 間で、柱間は東から 2.4 m、3.0 m。北側の柱筋も 2 間で、東から 3.0 m、2.4 m (復元) である。南北方向の柱筋は、現代の攪乱により柱穴は失われており、不明である。

柱穴の平面形は不整円形を呈し、大きさも不揃いである。深さは 0.08 ~ 0.18 m と浅い。抜取りの有無は不明である。柱穴埋土は、褐灰色細粒砂シルト混じりで中から極粗粒砂を含み、基盤層のオリーブシルト細から中粒砂混じりのブロックを含むか、褐灰色細粒砂シルト混じりで中から極粗粒砂含むである。

柱穴からは土師器の細片が出土しているが、時期を特定できるものはない。



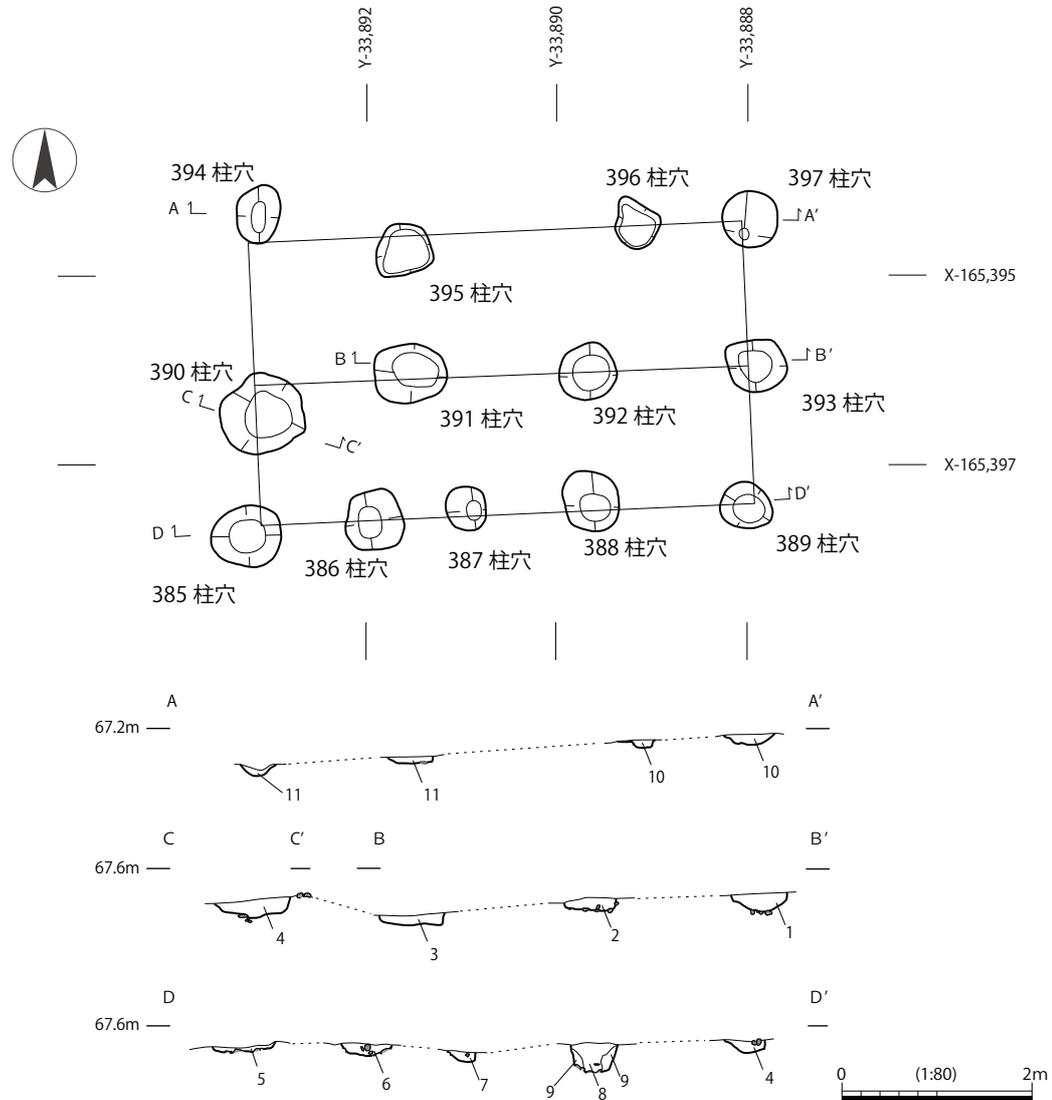
- 1 10YR2/1 黒 シルト細粒砂混じり中〜極粗粒砂含むに 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中粒砂含むのブロック含む (抜取り)
- 2 10YR2/1 黒 シルト細粒砂混じり中〜極粗粒砂含むに 10YR5/6 黄褐 中〜粗粒砂シルト混じり細礫多く含む (基盤層) のブロック含む (掘方)
- 3 10YR2/1 黒 シルト細粒砂混じり中〜極粗粒砂含むと 10YR5/6 黄褐 中〜粗粒砂シルト混じり細礫多く含む (基盤層) のブロック土
- 4 10YR2/1 黒 シルト細粒砂混じり中〜極粗粒砂含むに 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中粒砂含むと 10YR5/6 黄褐 中〜粗粒砂シルト混じり細礫多く含む (基盤層) のブロック含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中粒砂含むブロックに 10YR5/6 黄褐 中〜粗粒砂シルト混じり細礫多く含む (基盤層) のブロック含む 10YR2/1 黒 シルト細粒砂混じり中〜極粗粒砂含むのブロック若干含む (抜取り)
- 6 10YR2/1 黒 シルト細粒砂混じり中〜極粗粒砂含むに 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中粒砂含むのブロック若干含む 10YR5/6 黄褐 中〜粗粒砂シルト混じり細礫多く含む (基盤層) のブロック含む (掘方)
- 7 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中粒砂含むと 10YR5/6 黄褐 中〜粗粒砂シルト混じり細礫多く含む (基盤層) のブロック土 (抜取り?)
- 8 10YR3/3 暗褐 シルト細粒砂混じり炭化物含む中〜粗粒砂含む (柱痕跡)
- 9 10YR2/1 黒 シルト細粒砂混じり中〜極粗粒砂含むと 10YR4/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり中粒砂含む 10YR5/6 黄褐 中〜粗粒砂シルト混じり細礫多く含む (基盤層) のブロック土 (掘方)

図 40 掘立柱建物 23

掘立柱建物 23 (図 17、40 写真 26 - 1・2)

掘立柱建物 21 の南で検出している。建物内の柱穴と北西隅の柱穴は検出できなかったが、北で約 7 度東へ振れる 2 間 2 間の総柱建物と考えられる。柱間は東西方向が東から 1.4 m、2.4 m。南北方向は南から 1.8 m、2.0 m で、東西方向は北側の 1 間、南北方向は西側の 1 間が広いが、柱筋は揃う。東西延長 3.8 m、南北延長 3.8 m の正方形の建物で、面積は約 14 m<sup>2</sup> を測る。

上部が大きく削平されている 408・412 柱穴以外の柱穴には、抜取りがみられる。柱穴の平面形は



- 1 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む 10YR3/2 黒褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むブロック含む細～中礫含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR3/2 黒褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むブロック含む
- 4 10YR3/2 黒褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むブロック含むに 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト細～極粗粒砂多く含む (基盤層)
- 5 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む 中礫含む
- 6 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む 細～中礫含む
- 7 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト細～極粗粒砂多く含むブロック含む (基盤層) のブロック含む
- 8 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト細～極粗粒砂多く含むブロック含む (基盤層) のブロック含む小礫含む (抜取り)
- 9 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む (掘方)
- 10 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR3/2 黒褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むと 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト細～極粗粒砂多く含む (基盤層) のブロック含む
- 11 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む

図 41 掘立柱建物 24

不整円形を呈するが、隅丸方形を指向すると思われる。深さは、0.08～0.38 mを測る。抜取り埋土はおおむね灰黄褐色シルト細粒砂混じりで中粒砂を含むブロックに、黄褐色中から粗粒砂シルト混じりに細礫を多く含むブロックと、黒色シルト細粒砂混じりで中から極粗粒砂を含むブロックを若干含む。掘方の埋土は黒色シルト細粒砂混じりで中から極粗粒砂を含み、灰黄褐色シルト細粒砂混じり中粒砂を含むブロックを若干含む。

柱穴からは土師器の細片が出土しているが、時期を特定できるものはない。

**掘立柱建物 24** (図 17、41 写真 25-1～5)

3区の南西隅で検出した総柱建物で、北で約3度西へ振れる。桁行は南側柱筋が4間、妻柱筋が3間、北側柱筋が3間で、梁行2間の東西棟である。

桁行の柱間は、南側柱筋が東から1.7 m、1.3 m、1.0 m、1.2 m、妻柱筋が東から1.7 m、1.8 m、1.7 m、北側柱筋が1.1 m、2.4 m、1.7 mを測る。梁行の柱間は1.5 m等間である。桁行は綺麗に揃っているが、梁行は不揃いである。桁行延長5.2 m、梁行延長は3.0 mで、建物の面積は約16 m<sup>2</sup>を測る。

388柱穴には抜取りがみられるが、他の柱穴は不明である。柱穴の平面形は不整円形を呈する。深さは周辺の掘立柱建物に比べ深く、0.08～0.32 mを測る。抜取り埋土はおおむね灰黄褐色極細粒シルト混じりで中から粗砂粒を含み、基盤層の明黄褐色シルト細粒砂混じりで中から粗砂粒を含むブロックを含む。掘方埋土はおおむね褐灰色シルト細粒砂混じりで中粒砂を含むブロックに、基盤層の明黄褐色シルト細粒砂混じりで中から粗砂粒を含むブロックを含む。

柱穴からは土師器の細片が出土しているのみで、図化できるものはなく時期も不明である。

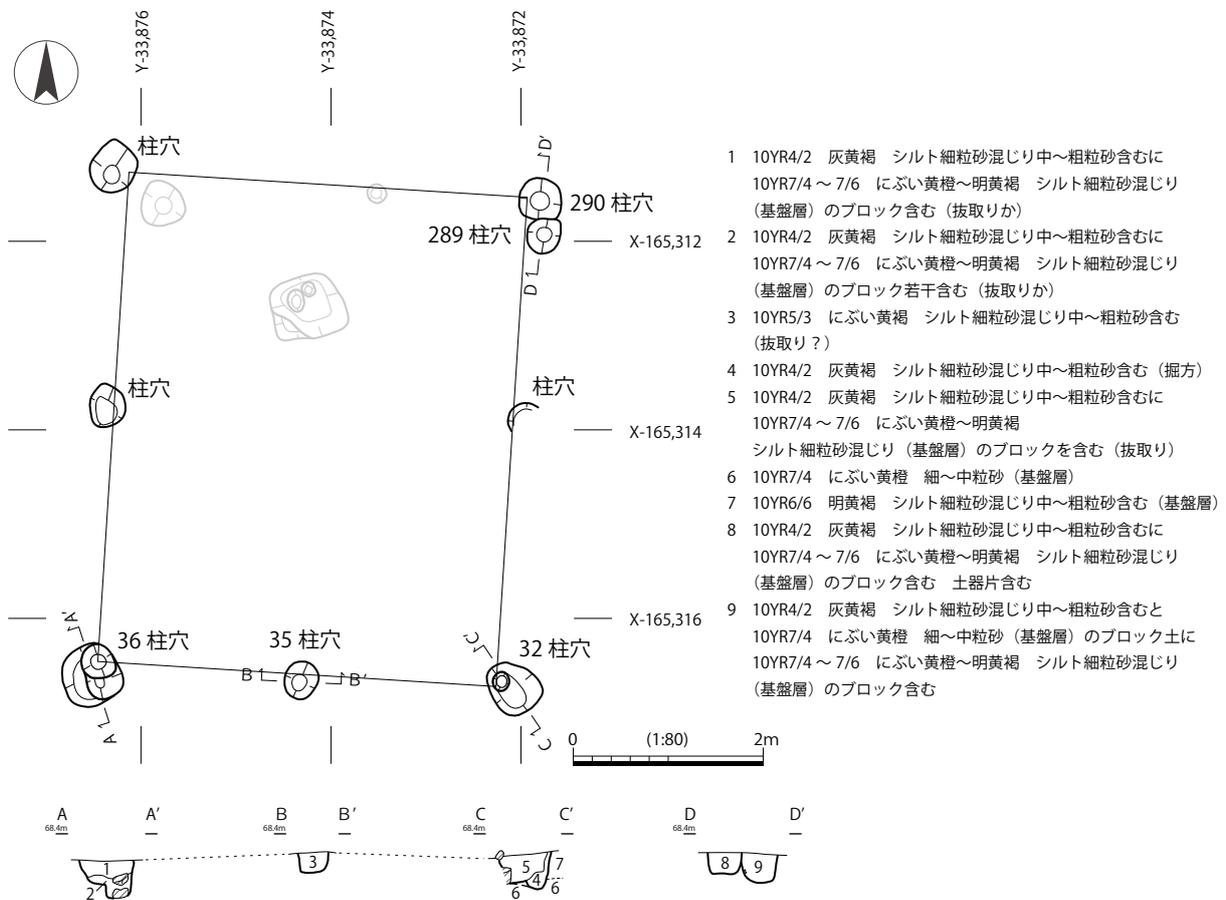
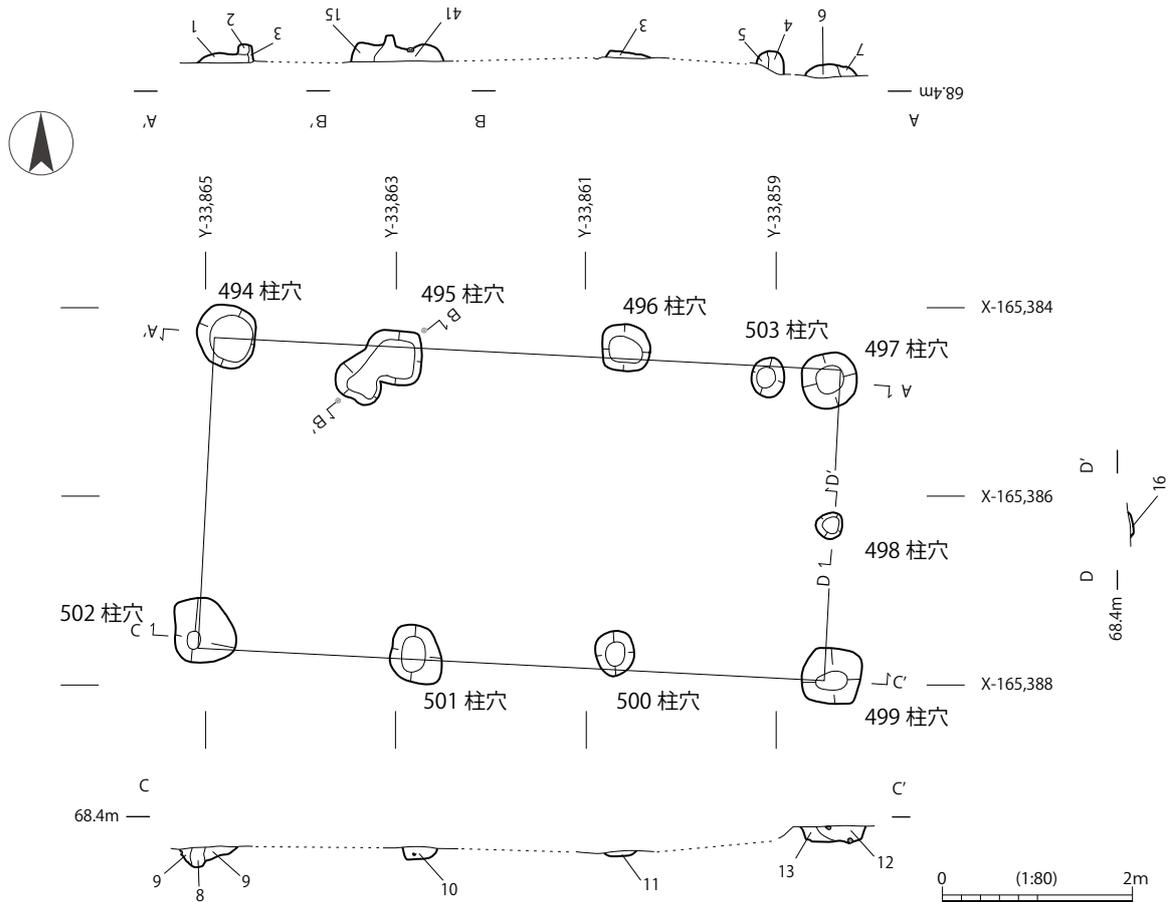


図 42 掘立柱建物 26

## 掘立柱建物 26 (図 16、42 写真 26-3・4)

1 区の掘立柱建物 2 の東に位置する。調査時には南の梁行の 3 間分を柱列として認識していたが、整理時に 2 区で検出したピットと考え合わせ改めて掘立柱建物 26 とした。このため、柱穴の断面は、南の梁行の 32・35・36 柱穴と北東隅柱の 289 柱穴のみである。なお、北妻柱は 1 区の側溝により失われている。

建物は北で約 3 度東へ振れる、桁行 2 間梁行 2 間の東西棟である。桁行の柱間は南から 2.4 m、2.8 m。梁行の柱間は 2.1 m 等間である。桁行の延長は 5.2 m、梁行の延長は 4.2 m で、建物の面積は約 22 m<sup>2</sup>



- 1 10YR5/4 にぶい黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む 10YR7/2 にぶい黄橙 細礫細粒砂含むブロック若干含む
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR6/1 褐灰 シルト細粒砂混じりのブロック含む (柱痕跡)
- 3 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む
- 4 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む炭化物・土器細片含む 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック僅かに含む (抜取り)
- 5 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック含む (掘方)
- 6 10YR5/4 にぶい黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロックと 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むのブロック含む (抜取り)
- 7 10YR5/4 にぶい黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック含む (掘方)
- 8 10YR5/4 にぶい黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック含む (抜取り)
- 9 10YR5/4 にぶい黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む (抜取り)
- 10 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR5/4 にぶい黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むブロック含む
- 11 10YR5/4 にぶい黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む
- 12 10YR5/4 にぶい黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック含む細礫多く含む (抜取り)
- 13 10YR5/4 にぶい黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むと 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック含む細礫多く含む (掘方)
- 14 10YR5/4 にぶい黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック僅かに含む 炭化物と焼土ブロック含む (抜取り)
- 15 10YR5/4 にぶい黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む細礫多く含む (抜取り)
- 16 10YR5/1 褐灰 シルト細粒砂混じり 10YR7/2 にぶい黄橙 細礫細粒砂含むブロック多く含む

図 43 掘立柱建物 27

である。

柱穴の平面形は不整形円で直径約 0.5 m 前後で、深さは 0.2 ～ 0.4 m である。32 柱穴のみ明確な抜取りがみられる。抜取り埋土はおおむね灰黄褐色シルト細粒砂混じり中から粗粒砂を含み、基盤層のにぶい黄褐色から明黄褐色シルト細粒砂混じりのブロックを含む。掘方の埋土はおおむね灰黄褐色シルト細粒砂混じり中から粗粒砂を含む。

柱穴からは土師器片のほか 13 世紀から 14 世紀前半と考えられる瓦器椀片が出土しているが、図化はできなかった。また、被熱した凝灰岩片も出土している。

#### 掘立柱建物 27 (図 17、29 - 5・7、43 写真 26 - 5・6、35 - 5・7)

掘立柱建物 21 の東約 10 m で検出した、北で約 3 度東へ振れる側柱建物である。西側の妻柱が検出できなかったが、桁行 3 間梁行 2 間の東西棟である。桁行の柱間は東から 2.2 m、2.3 m、2.1 m で、真ん中の一間がやや広い。梁行の柱間は東側で、南から 1.8 m、1.5 m と妻柱がやや南へ寄る。桁行の延長は 6.6 m、梁行の延長は 3.3 m で、建物の面積は約 23 m<sup>2</sup> を測る。

494・495・497・499・502 柱穴に抜取りがみられるが、他は不明である。柱穴の平面形は不整形を呈し、大きさも不揃いである。深さは 0.06 ～ 0.28 m と浅い。

抜取り埋土は灰黄褐色極細粒砂シルト混じりで中から粗砂粒を含み、基盤層の明黄褐色シルト細粒砂混じりで中から粗砂粒を含むブロックを含む。掘方埋土は褐灰色シルト細粒砂混じりで中粒砂を含むブロックに、基盤層の明黄褐色シルト細粒砂混じりで中から粗砂粒を含むブロックを含み、砂混じりのブロックを含む。全体に抜取りに基盤層のブロックが多く混じる。

柱穴からは土師器片や須恵器片、瓦器椀片が出土しており、図化できたものに 12 世紀前半の土師器皿 (図 29 - 5) と、瓦器皿 (7) がある。

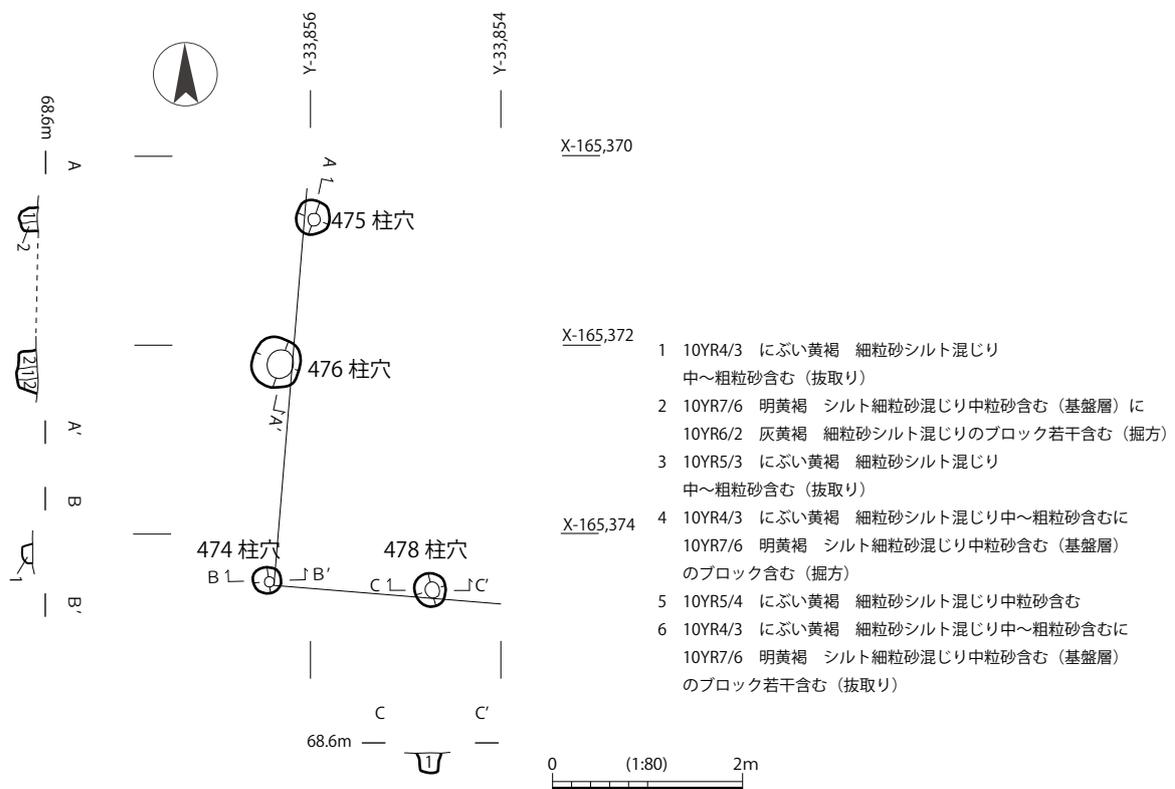


図 44 掘立柱建物 29

掘立柱建物 29 (図 17、44 写真 26 - 7・8)

掘立柱建物 27 の北で検出した、北で約 5 度東へ振れる南北棟と考えられる側柱建物で、西側の桁行 2 間分、南側の梁行 1 間分を検出したのみである。西側の桁行の柱間は南から 2.3 m、1.6 m。南側の梁行の柱間は 1.7 m を測る。

柱穴の平面形は円形で、直径 0.3 ~ 0.5 m と不揃いである。深さは 0.12 ~ 0.2 m を測る。475・476 柱穴には抜取りがみられるが、他は不明である。抜取り埋土はおおむねにぶい黄褐色細粒砂シルト混じりで中から粗粒砂を含む。掘方埋土はおおむね基盤層である明黄褐色シルト細粒砂混じり中粒砂を含み、灰黄褐色細粒砂シルト混じりのブロックを若干含む。

埋土からは土師器の細片が出土しているのみで時期は不明だが、中世段階の建物と考えたい。

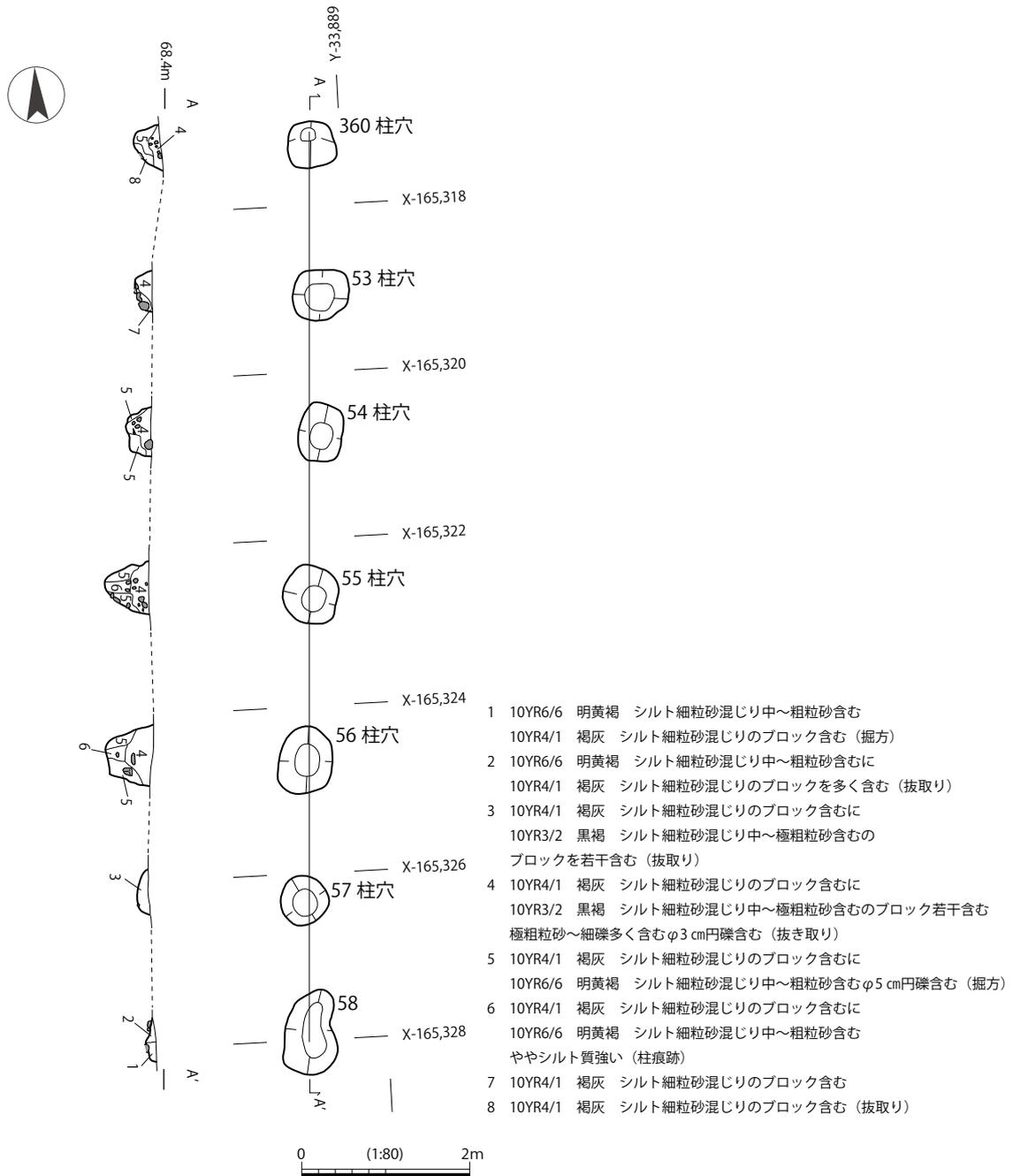


図 45 柱列 3

## 柱列

### 柱列3 (図 16、45 写真 27-1・2)

1 区の掘立柱建物 3 の西側で検出している南北方向の柱列で、正方位を向く。

延長は 10.8 m で、6 間分を検出している。柱間は南から 1.7 m、1.7 m、1.9 m、1.9 m、1.7 m、1.9 m を測る。柱穴の平面形は 58 柱穴が不整楕円形をするものの、他は不整円形である。大きさは直径が 0.5 ~ 0.7 m、深さは 0.1 ~ 0.5 m を測る。57 柱穴以外には抜取りがみられる。抜取り埋土はおおむね明黄褐色から褐灰色シルト細粒砂混じりで中から粗粒砂を含み、灰褐色から黒褐色シルト細粒砂混じりで中から粗粒砂を含むブロックが混じる。掘方埋土はおおむね明黄褐色シルト細粒砂混じりで中から粗粒砂を含み、褐灰色シルト細粒砂混じりのブロックを含む。抜取りと掘方共に、基盤層のブロックがほとんど入っていない。柱穴からは土師器片のほか、13 世紀に考えられる瓦器椀片が出土しているが、図化はできなかった。

### 柱列5 (図 16、46、51-8 写真 27-3・4・6、35-8)

1 区の掘立柱建物 12 の南で検出した東西方向の柱列で、正方位に向く。延長は 8.6 m で、4 間分を検出している。柱間は東から 2.0 m、2.0 m、2.1 m、2.5 m を測る。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 0.3 m 前後と小振りで、深さも浅く 0.1 ~ 0.22 m である。抜取りは観察できなかった。

柱穴埋土はおおむね灰黄褐色細粒砂シルト混じりに中から極粗粒砂を含み、基盤層の黄橙色シルト細粒砂混じりのブロックや、褐灰色シルト細粒砂混じりで中粒砂を含むブロックを含む。323 柱穴からは図 51-8 の、12 世紀に考えられる瓦器皿が出土している。

### 柱列6 (図 16、47 写真 27-5)

柱列5の南で検出している東西方向の柱列で、正方位に向く。延長は 5.1 m で、3 間分を検出している。柱間は東から 1.2 m、1.8 m、2.1 m を測る。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 0.2 ~ 0.58 m、深さは 0.1 ~ 0.2 m と小振りである。柱穴の埋土はおおむね黄褐色細粒砂シルト混じりに中から極粗粒砂を含み、基盤層の黄橙色シルト細粒砂混じりのブロックを含む。

埋土からは土師器片や須恵器片、瓦器片が出土している。なお、本柱列は調査後に認識しているため、埋土の記載のみで、断面の図示はできなかった。



図 46 柱列5

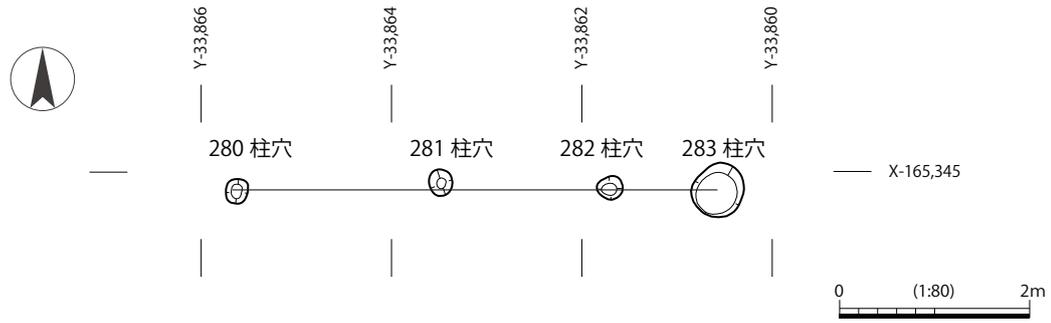
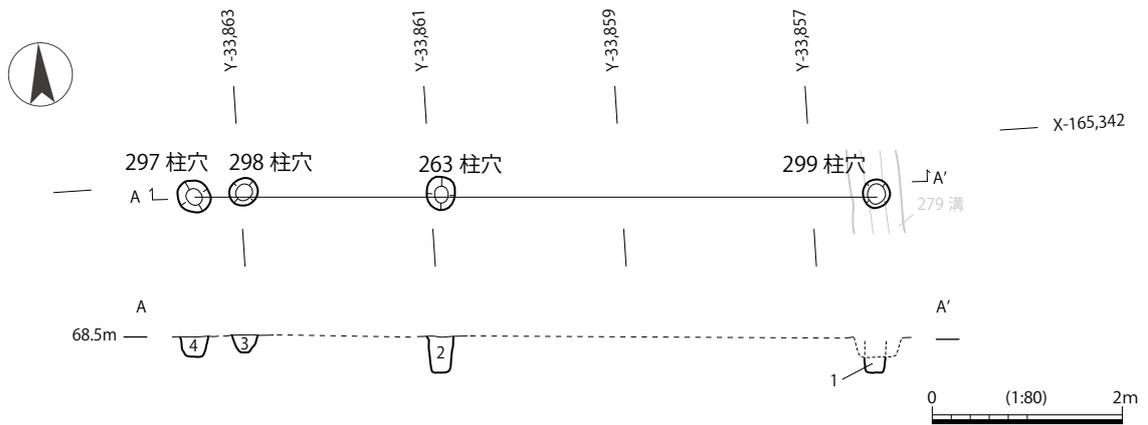
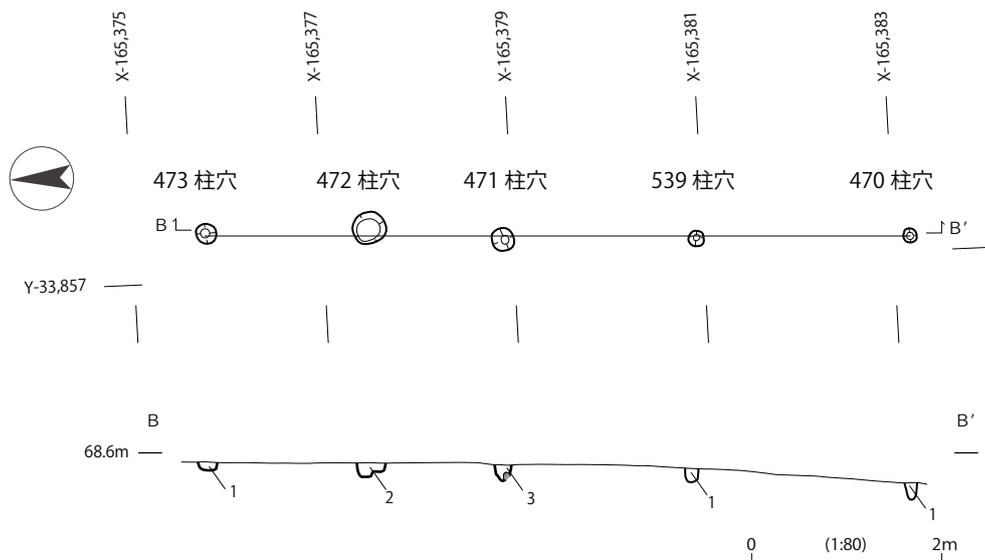


図 47 柱列 6



- 1 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含む 10YR7/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック僅か含む 炭化物と焼土を多く含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むに 10YR7/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック若干含む 焼土ブロック含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むに 焼土ブロックと炭化物多く含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中粒砂含むに 10YR7/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり (基盤層) のブロック若干含む 炭化物と焼土ブロック多く含む

図 48 柱列 7



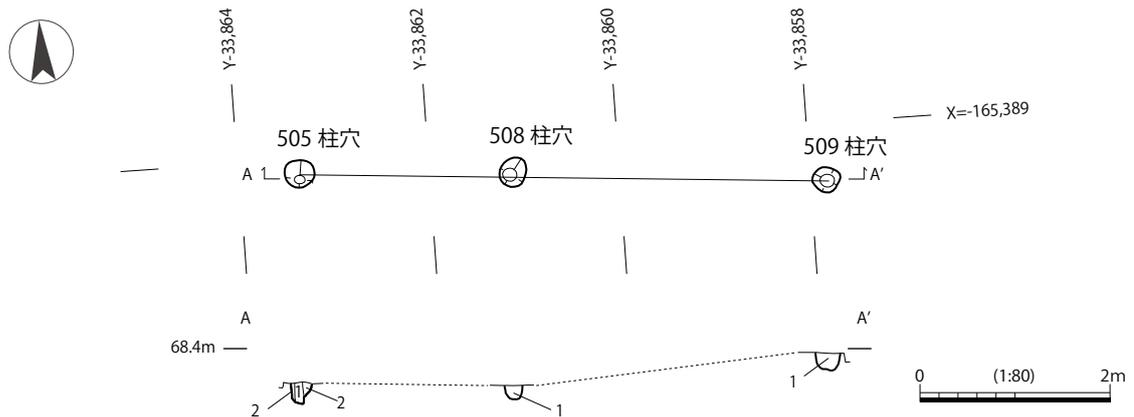
- 1 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり中粒砂 (基盤層) のブロックを多く含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含むに 10YR6/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり中粒砂 (基盤層) のブロックを若干含む

図 49 柱列 8

柱列7 (図 16、48 写真 27-7・8)

1 区の掘立柱建物 13・17 と重複する東西方向の柱列で、西で約3度北へ振れる。延長は 6.7 mで、2間分を検出している。柱間は東から 4.6 m、2.1 mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 0.3 m前後と小振りである。深さは 298 柱穴が 0.3 mと浅いが、263・299 柱穴は 0.4 mと深く、底の高さも揃う。抜取りは観察できなかった。柱穴埋土は明黄褐色シルト細粒砂混じりで中から粗粒砂を含み、褐灰色シルト細粒砂混じりのブロックを含み、焼土も含む。

298 柱穴からは 13 世紀に考えられる瓦器碗片が出土している。



- 1 10YR5/3 にぶい黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む (柱痕跡?)
- 2 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む 10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じり中～極粗粒砂含む (基盤層) のブロック含む (掘方)
- 3 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含むに 10YR6/8 明黄褐 シルト細粒砂混じり中～極粗粒砂含む (基盤層) のブロック含む

図 50 柱列9

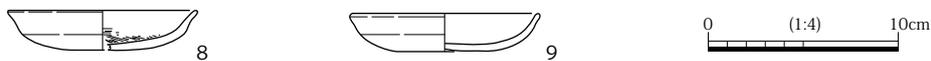
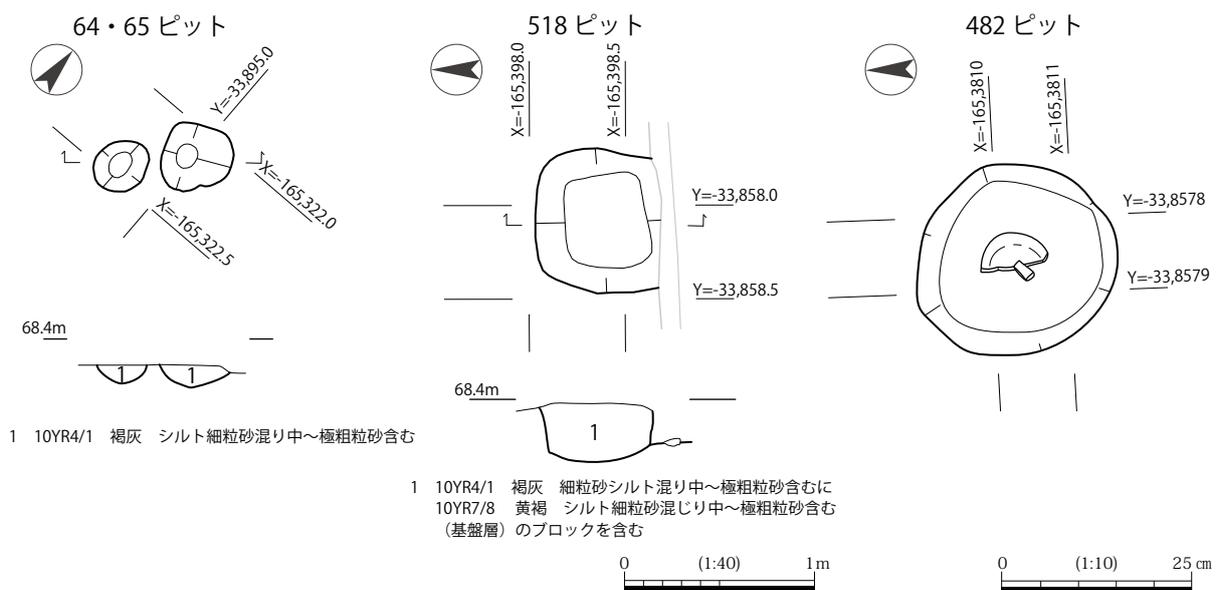


図 51 柱列5 323 柱穴・482 ピット出土遺物



- 1 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混り中～極粗粒砂含む

- 1 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混り中～極粗粒砂含むに 10YR7/8 黄褐 シルト細粒砂混じり中～極粗粒砂含む (基盤層) のブロックを含む

図 52 64・65 ピット、518 ピット、428 ピット

#### 柱列8 (図 17、49 写真 28-1・2)

3区の掘立柱建物29の南で検出した南北方向の柱列で、北で約3度東へ振れる。延長は7.4mで、4間分を検出している。柱間は東から2.2m、2.0m、1.5m、1.7mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は0.16～0.35mを測る。深さは0.08～0.15mと浅い。柱穴の断面では、抜取りは観察できなかった。柱穴埋土は明黄褐色シルト細粒砂混じりで中から粗粒砂を含み、褐灰色シルト細粒砂混じりのブロックを含む。

柱穴からは須恵器片や土師器片が出土しているが、時期を特定できるものはない。

#### 柱列9 (図 17、50 写真 28-3・4)

3区の掘立柱建物27の南で検出した東西方向の柱列で、西で約5度北へ振れる。延長は5.5mで、2間分を検出している。柱間は東から2.2m、3.3mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は0.3m前後を測る。深さ0.14m前後である。505柱穴では柱痕跡がみられた。掘方の埋土は灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から極粗粒砂を含み、基盤層の明黄褐色シルト細粒砂混じりで中から極粗粒砂を含むブロックを含む。他の柱穴の埋土は灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から極粗粒砂を含み、基盤層の明黄褐色シルト細粒砂混じりで中から極粗粒砂を含むブロックを含む。509柱穴から13世紀に考えられる瓦器椀片が出土しているが、図化はできなかった。

### ピット

#### 64・65ピット (図 52、53 写真 32-4)

1区の西半、細礫から中礫を主とする基盤層上面でも掘立柱建物を構成しないが、埋土が類似するピット群を検出している。その内の64・65ピットについて述べる。

平面形は不整円形を呈し、断面からは抜取りは認められない。埋土は単層で、褐灰色シルト細粒砂混じりで中から極粗粒砂を含む。断面形状は楕形を呈し、深さは0.1m前後を測る。

#### 518ピット (図 52、54 写真 32-6)

3区の南東隅付近で検出したピットである。平面形は1辺0.75mに復元できる隅丸方形で、深さは0.3mを測る。断面形状は箱型を呈する。2m西に同様な形状の519ピットがあり、掘立柱建物を構成する可能性が考えられる。

#### 482ピット (図 52-9、52、54 写真 32-5、35-9)

3区の柱列8付近で検出したピットで、直径0.26mの円形の平面形を呈する。深さは0.11mを測る。埋土は柱列8と類似しており、灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から粗粒砂を含む。

埋土中から図 51-9の土師器皿が出土している。

### 土坑・溝

ここからは、土坑と溝について記述する。遺構配置図を図 53 と図 54 に示す。

#### 21土坑 (図 53、55、56-13・14 写真 28-7、35-13・14)

1区北半部の掘立柱建物2の東で検出している。平面形は円形で、直径1.8m、深さは0.5mを測る。土坑の断面形は楕形を呈し、埋土は4層に区分できる。下層には、ラミナのみられるややシルトを含む細粒から中粒砂の層が、最上層には拳大の円礫を多く含む灰褐色シルト細砂混じりで中から極細粒砂を含む層が堆積していることから、一時的に水が溜まるような状況があり、最終的には人為的に埋めら

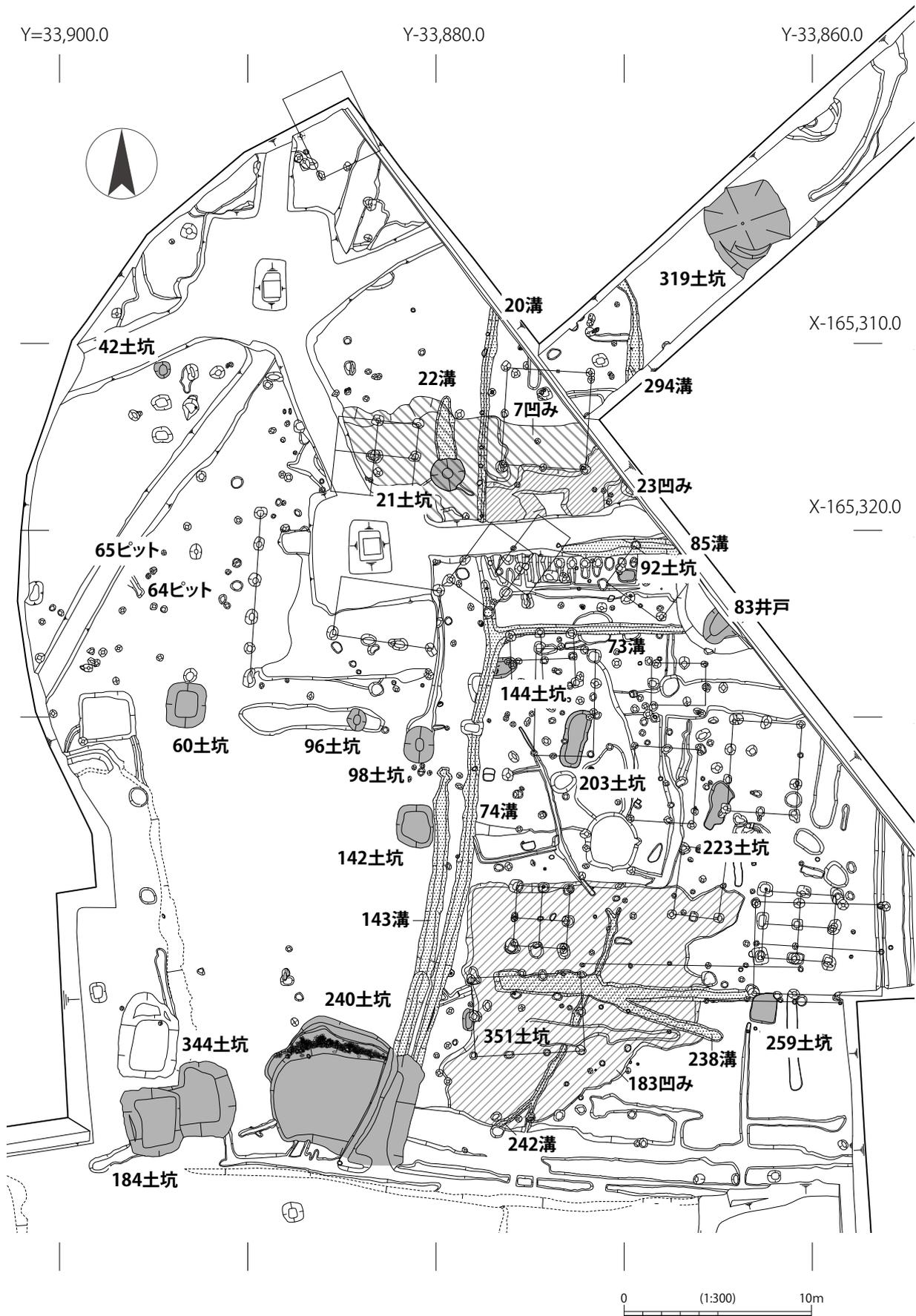


図 53 土坑・溝・凹み・谷 位置図 (1)

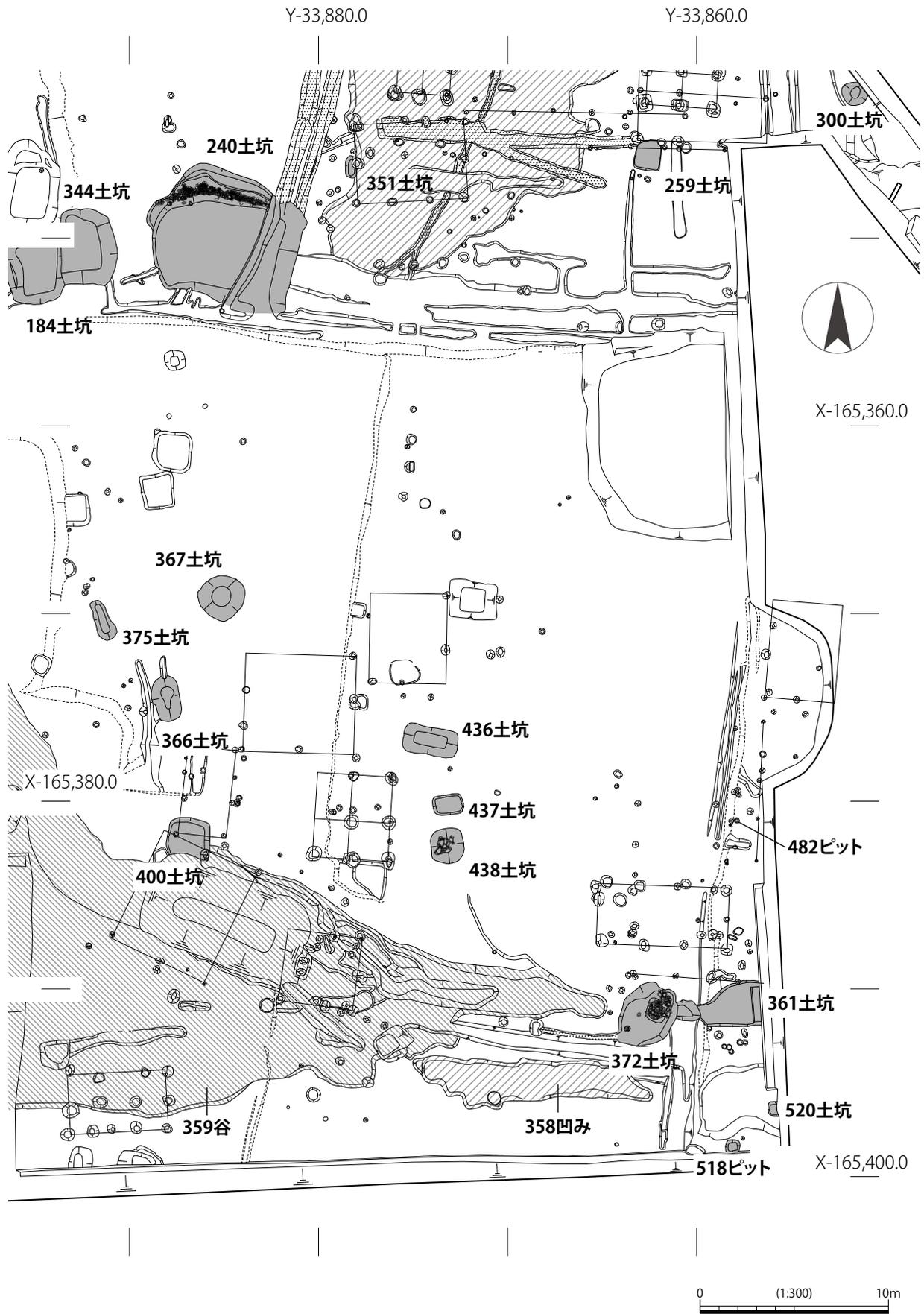
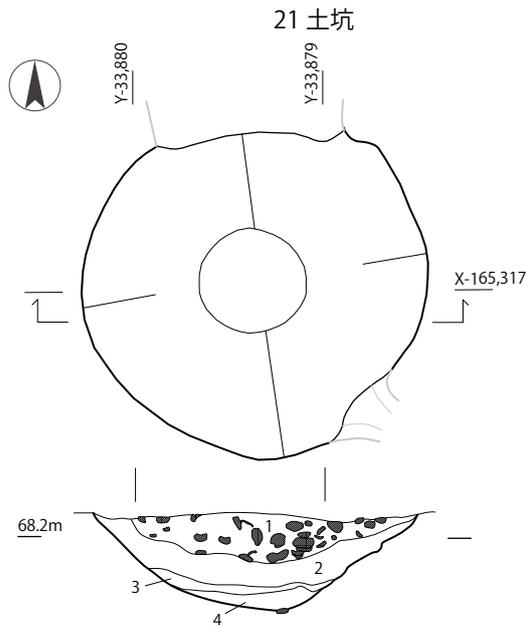
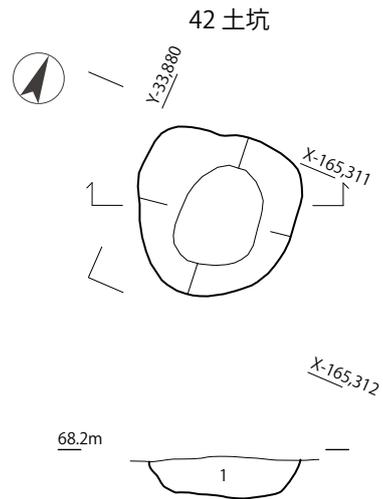


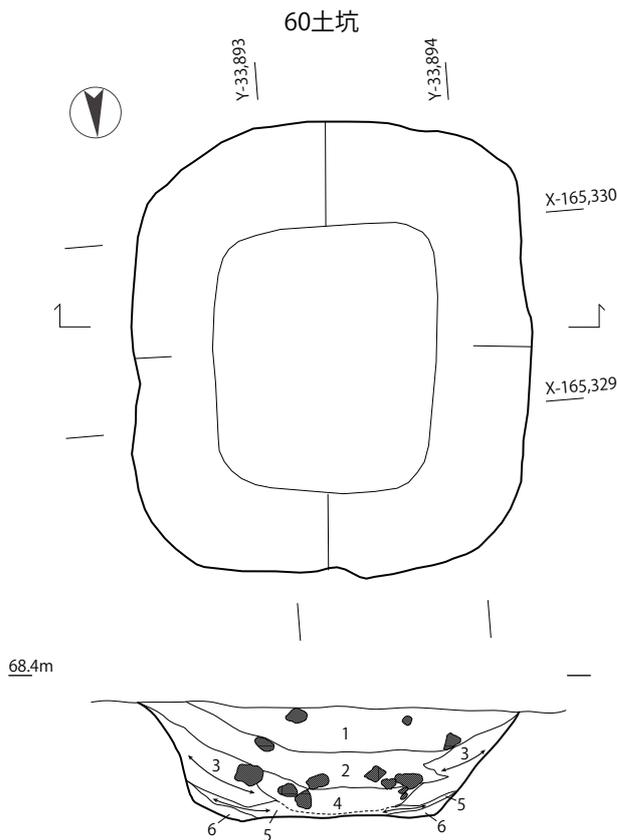
図 54 土坑・溝・凹み・谷 位置図 (2)



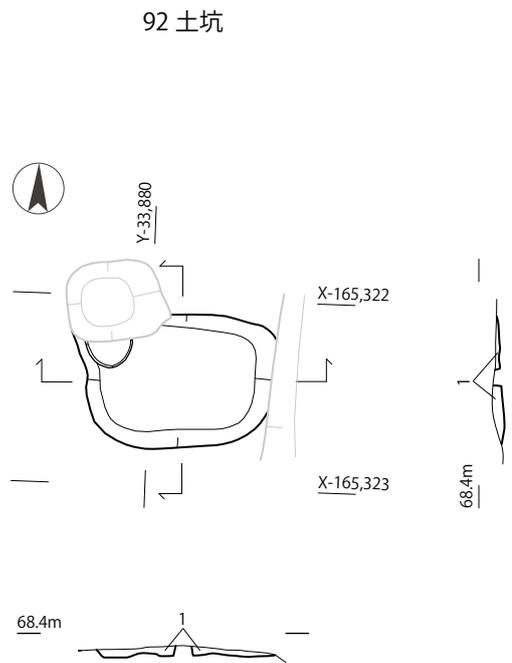
- 1 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じり中～極粗粒砂含む 拳大の円礫多く含む
- 2 10YR4/1 褐灰 シルト細粒砂混じり中～極粗粒砂含む
- 3 10YR5/1 褐灰 細～中粒砂ややシルト含む ラミナあり?
- 4 7.5YR4/4 褐 細～中粒砂 極粗粒砂含む



- 1 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂多く含む



- 1 10YR4/2 灰黄褐 細粒砂ややシルト混じり中～極粗粒砂含む φ7cmの円礫少し含む
  - 2 10YR5/2 灰黄褐 細粒砂ややシルト混じり中～極粗粒砂含む φ7cmの円礫少し含む
  - 3 10YR5/4 にぶい黄褐 中～極粗粒砂 ラミナあり
  - 4 10YR5/1 褐灰 シルト細粒砂混じり φ5～7cmの円礫含む
  - 5 10YR4/1 褐灰 シルト ラミナあり
  - 6 10YR5/4 にぶい黄褐 中～極粗粒砂 ラミナあり
- ※ベースは10YR5/6 黄褐 砂礫中～極粗粒砂でφ5～7cmの円礫多く含む



- 1 10YR4/1 褐灰 細粒砂シルト混じり中粒砂含む 焼土、炭化物含む

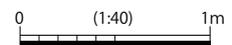


図 55 21 土坑、42 土坑、60 土坑、92 土坑

れたと考えられる。なお、土坑の北には 22 溝が取り付いていることから、溝を使って周囲の水を集めて溜めていたことも考えられる。

埋土から、図 56 - 14 の 13 世紀に考えられる瓦器皿と、13 の砥石が出土しているほか、土師器片、須恵器片、瓦質羽釜片、土師質羽釜片が出土している。

#### 42 土坑 (図 53、55 写真 28 - 8)

1 区北西部で検出した、平面形が不整形の土坑である。深さは 0.2m を測り、埋土は灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から極細粒砂を多く含む。

埋土からは須恵器片、土師器片が出土しており、図化はできなかったが 13 ~ 14 世紀に考えられる土師器皿片が出土している。周辺には同様に平面形が不整形で、埋土も類似する土坑を数基検出している。

#### 60 土坑 (図 53、55 写真 29 - 1)

平面形が隅丸方形で、長軸を南北にとる土坑である、長辺は 2.4m、短辺は 2.1m を測る。深さは 0.6m で、断面は逆台形を呈する。埋土は 6 層に区分でき、下層にはラミナのみられる層が堆積している。

埋土からは須恵器片、土師器片、陶磁器片、巴文軒丸瓦片、平瓦片が出土しており、近世以降の遺構と考えられる。水溜めの用途の土坑であろうか。

#### 92 土坑 (図 53、55 写真 29 - 2)

掘立柱建物 4 の 122 柱穴と重複する焼土坑で、前後関係は掘立柱建物 4 より古い。平面形は隅丸方形で、短軸方向を南北に合わせる。攪乱により東辺が失われているが、長辺約 1.0m、短辺 0.7m を測る。上部は大きく削平を受けており、深さは 5 cm 前後である。底面は細かな凹凸があるものの、全体に平らである。埋土は褐灰色細粒砂シルト混じりで中粒砂を含み、焼土と炭化物を含む。被熱による底面や壁面の赤変は弱い。

埋土中からは土師器片や須恵器片が出土しているが、時期の特定は難しい。

#### 96 土坑 (図 53、56 - 15 ~ 17、57 写真 29 - 3、35 - 15、36 - 16・17)

掘立柱建物 3 の南で検出した、平面形が楕円形を呈する土坑である。長軸 1.0m、短軸 0.9m で、深さは 0.85m を測る。埋土は単層で、灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から極細粒砂を含み、拳大から子供の頭大の垂円礫が多く入る。

埋土からは土師器片、瓦器片、土師質羽釜片が出土している。図化できた図 56 - 15・16 は 12 世紀後半に考えられる瓦器椀、17 は土師質羽釜である。

#### 98 土坑 (図 53、57 写真 29 - 4)

96 土坑の東側で検出した平面形が楕円形を呈する土坑である。長軸 1.9m、短軸 1.6 m、深さは 0.55 m を測る。断面形は椀形で、埋土は灰黄褐色細粒砂シルト混じりで中から極細粒砂を含む。下部に人頭大の円礫を多く含む。

埋土からは瓦器椀片、土師質羽釜片、土師器皿片、瓦質襖片が出土しており、14 世紀以降に考えられる。

#### 142 土坑 (図 53、57 写真 29 - 5)

98 土坑の南で検出した、平面形が隅丸方形に近い土坑である。長辺は 2.2m、短辺は 1.85m で、深さは 0.4m である。埋土は単層で、にぶい黄褐色細粒砂シルト混じりで中から極粗粒砂を含む。拳大から子供の頭大の円礫を多く含む。

埋土中からは、土師羽釜片、瓦質襖片が出土しており、14 世紀以降に考えられる。

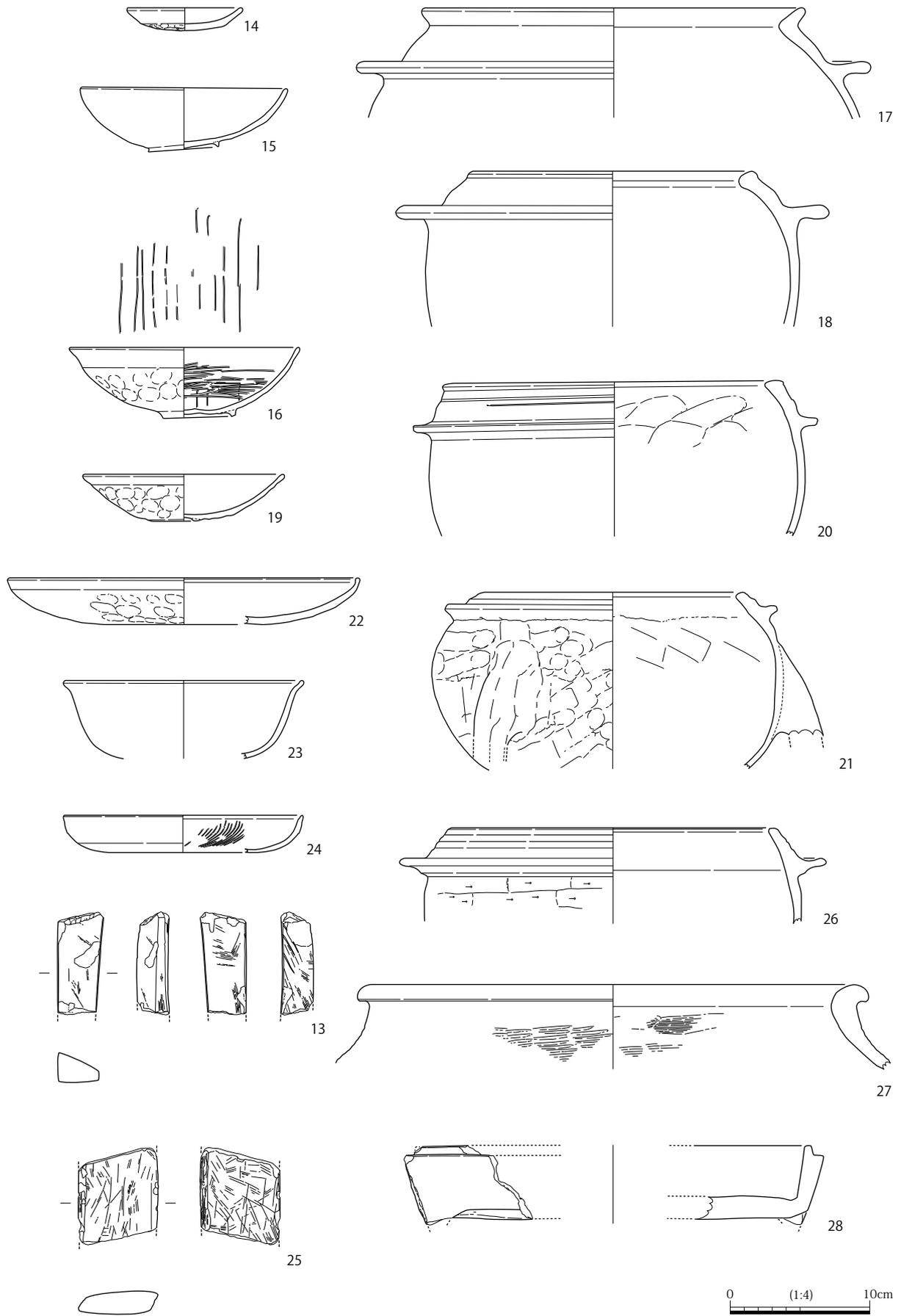


图 56 21 土坑·96 土坑·144 土坑·203 土坑·223 土坑·240 土坑 出土遺物

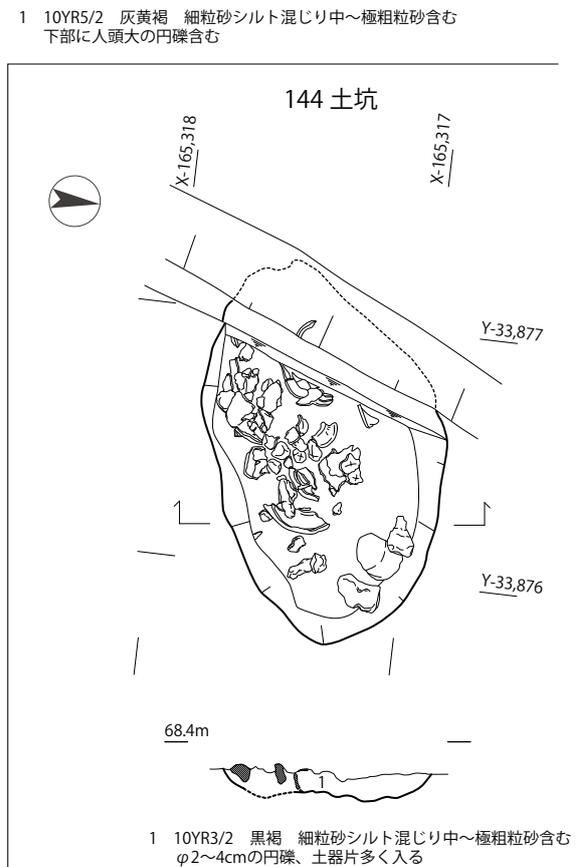
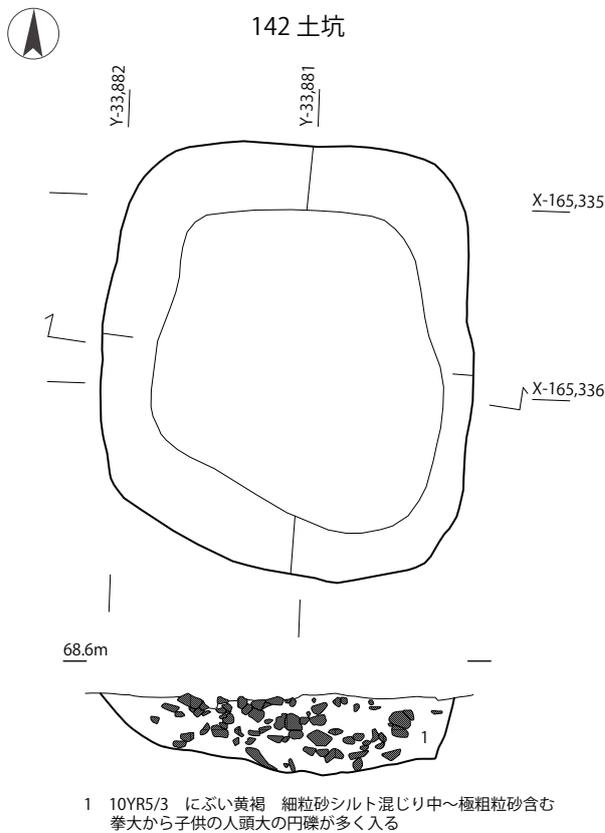
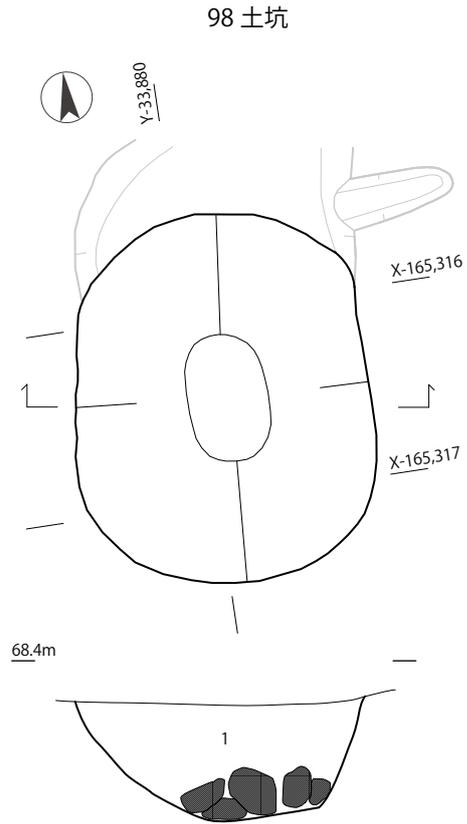
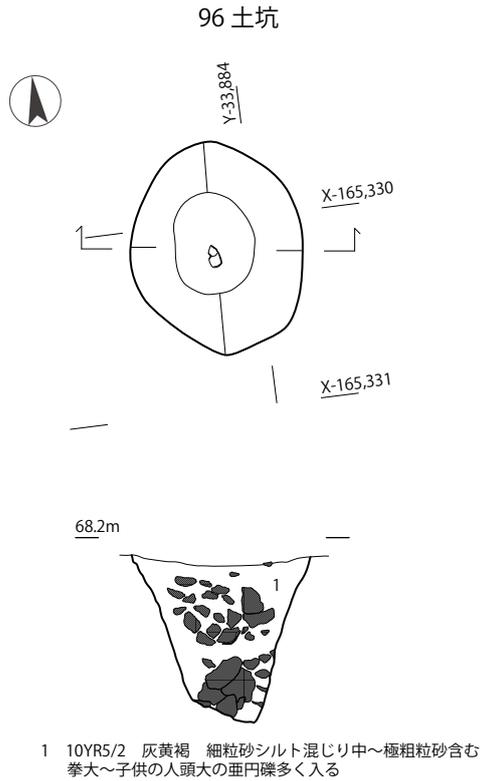
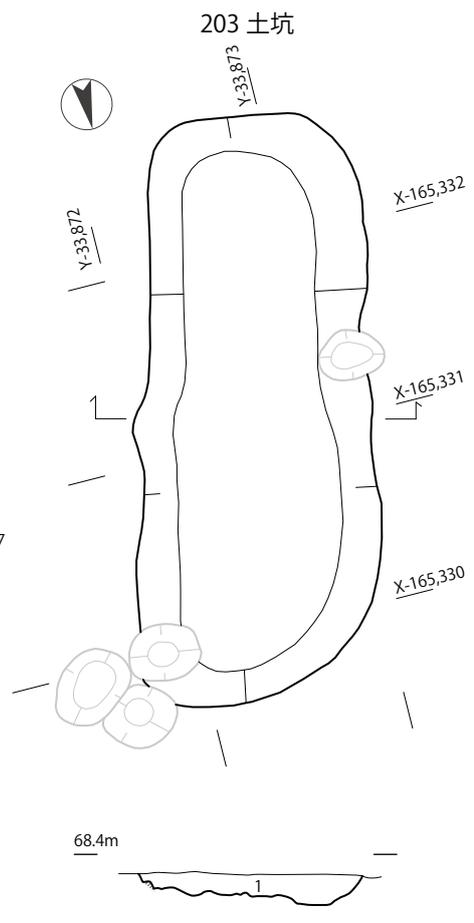
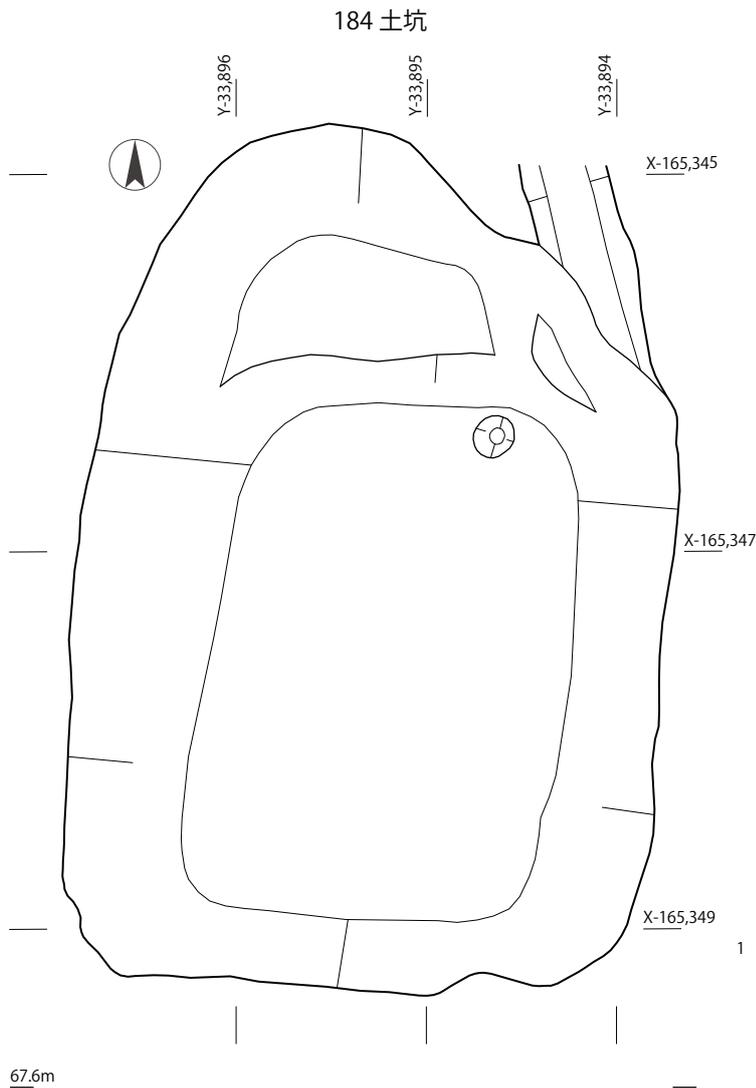
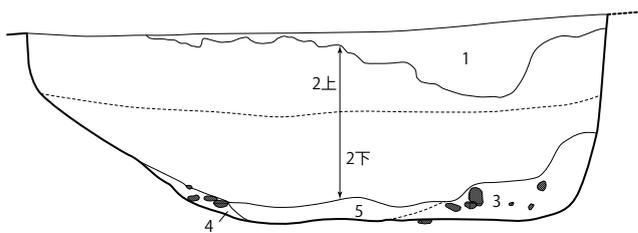


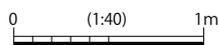
図 57 96 土坑、98 土坑、142 土坑、144 土坑



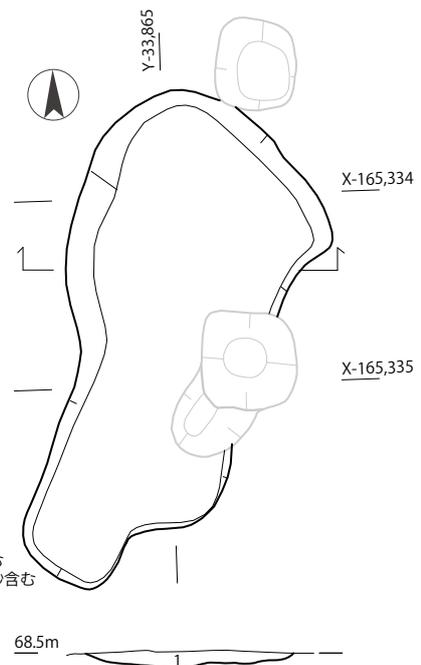
- 1 10YR5/3 にぶい黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む  
 10YR5/1 褐灰 細粒砂シルト混じり  
 中～極粗粒砂含むブロックを含む  
 10YR7/6 明黄褐 シルト細粒砂混じり  
 中～粗粒砂含むブロックを含む



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂多く含む  
 $\phi$ 7cmの円礫少し含む  
 2 上 10BG6/1 青灰 シルト混じり細粒砂のブロック若干含む  
 下 10BG5/1 青灰 シルト  
 3 10BG4/1 暗青灰 細～中粒砂シルト混じり  
 4 10BG4/1 暗青灰 シルト砂礫含む  
 5 10BG4/1 暗青灰 シルト中～極粗粒砂若干含む



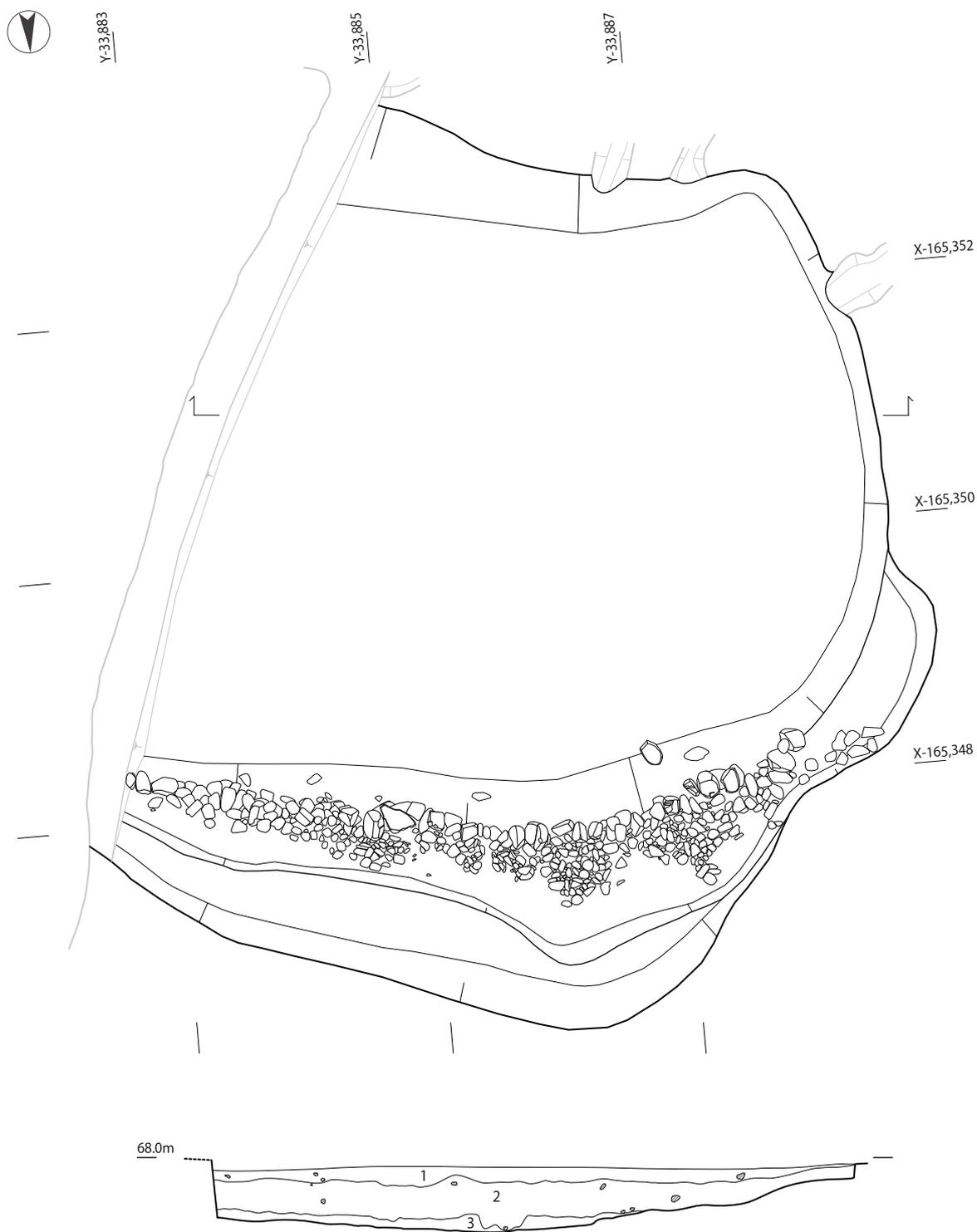
### 223 土坑



- 1 10YR6/2 灰黄褐 細粒砂シルト混じり中～極粗粒砂含む  
 下部に 10YR7/8 黄橙 細粒砂シルト混じり中～粗粒砂含む  
 のブロック含む 炭化物、土器細片含む

図 58 184 土坑、203 土坑、223 土坑

240 土坑



- 1 10YR6/2 灰黄褐 シルト細粒砂混じり粗粒砂含む
- 2 10YR6/3 にぶい黄橙 中粒砂シルト混じり粗～極粗粒砂のブロック含む
- 3 10BG6/1 青灰 シルト細粒砂混じり 下部に中粒砂多く含む

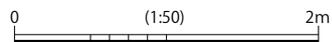


図 59 240 土坑

**144 土坑** (図 53、図 56 - 18 ~ 21、図 57 写真 29 - 6、36 - 18 ~ 21)

掘立柱建物 8 と 74 溝と重複しており、前後関係は掘立柱建物 8 → 144 土坑 → 74 溝である。平面形は不整楕円形を呈し、長軸 1.5m、短軸 0.9m で、深さは 0.1m を測る。埋土は単層で、暗褐色細粒砂シルト混じりで中から極粗砂粒を含み、中礫の円礫と土器片を多く含む。

埋土から出土した土器に須恵器片、土師器片、瓦器椀片、土師質羽釜片、瓦質羽釜片があり、図化したものに図 56 - 18 ~ 21 がある。18・20 は土師質羽釜、19 は 14 世紀に考えられる瓦器椀、21 は三足付き瓦質羽釜である。

**184 土坑** (図 53、58 写真 29 - 7)

344 土坑と重複しており、掘削時期は 344 土坑 → 184 土坑であるが、埋没は同時である。平面形は不整形で、長軸 4.6m、短軸 3.1m、深さは 1.0 m を測る。埋土はかなりグライ化している。耕作地境に位置しており、周囲の状況から水溜めの可能性が考えられる。

遺物は出土していないが、埋没が 344 土坑と同時期であることから、15 世紀以降に考えられる。

**203 土坑** (図 53、56 - 22・23、58 写真 36 - 22・23)

掘立柱建物 9 と重複しているが、建物を構成する柱穴と重複していないため、遺構からの前後関係は不明である。平面形は不整な長方形を呈し、長軸 3.1m、短軸 1.2m、深さは 0.16m を測る。埋土は単層で、にぶい黄褐色細粒砂シルト混じりに中から極粗粒砂を含み、褐灰色細粒砂シルト混じりで中から粗粒砂を含むブロックと、明黄褐色シルト細粒砂混じりで中から粗粒砂を含むブロックを含む。

埋土中から土師器片が出土しており、図化できたものに図 56 - 22・23 がある。22 は土師器皿、23 は 7 世紀後半に考えられる土師器杯である。

**223 土坑** (図 53、56 - 24、58 写真 36 - 24)

223 土坑は掘立柱建物 11 の 216 柱穴と重複しており、前後関係は 223 土坑 → 掘立柱建物 11 (216 柱穴) である。土坑の平面形は不整形で、断面形状は浅い皿型を呈する。深さは 0.1m である。埋土は単層で、灰黄褐色細粒砂シルト混じりに中から粗粒砂を含む。下部に基盤層のブロックを含み、全体に炭化物や土器片を含んでいる。埋土からは土師器片、須恵器片が出土しており、図化できたものに図 56 - 24 の 8 世紀後半の土師器杯がある。

**240 土坑** (図 53、56 - 25 ~ 28、59 写真 29 - 8、36 - 25・28、37 - 26・27・29 ~ 33)

17 世紀以降に考えられる 143 溝と重複しており、前後関係は 204 土坑 → 143 溝の順である。土坑の北には拳大の円礫がまとまって出土しており、護岸の様な役割を果たしたものと考えられる。平面形は不整形で、長軸 5.2m、短軸 4.2m を測る。断面形は皿形を呈し、深さは 0.4m である。埋土は 3 層に区分でき、最下層には鉄分の沈着が著しい。

埋土中からは 15 世紀に考えられる須恵器片、土師器片、陶器片、土師質羽釜、瓦質羽釜、瓦質甕、平瓦が出土しており、図化した遺物に図 56 - 25 ~ 28、写真のみの遺物に写真 29 ~ 33 がある。25 は砥石、26 は瓦質羽釜、27 は瓦質甕、28 は瓦質火鉢、29 は丸瓦、30・32 は平瓦、31・33 は土師質羽釜である。いずれも、14 世紀以降に考えられる。

**259 土坑** (図 53、60 写真 30 - 1)

焼土坑で、掘立柱建物 17 と重複関係にあるが、建物の柱穴とは重複がないため、前後関係は不明である。土坑の平面形はやや不整な長方形を呈し、長軸を南北方向に合わせる。長軸は 1.6 m、短軸は 1.32m で、深さは 0.05m を測る。埋土は 2 層に区分でき上層は、にぶい黄褐色細粒砂シルト混じりで中から

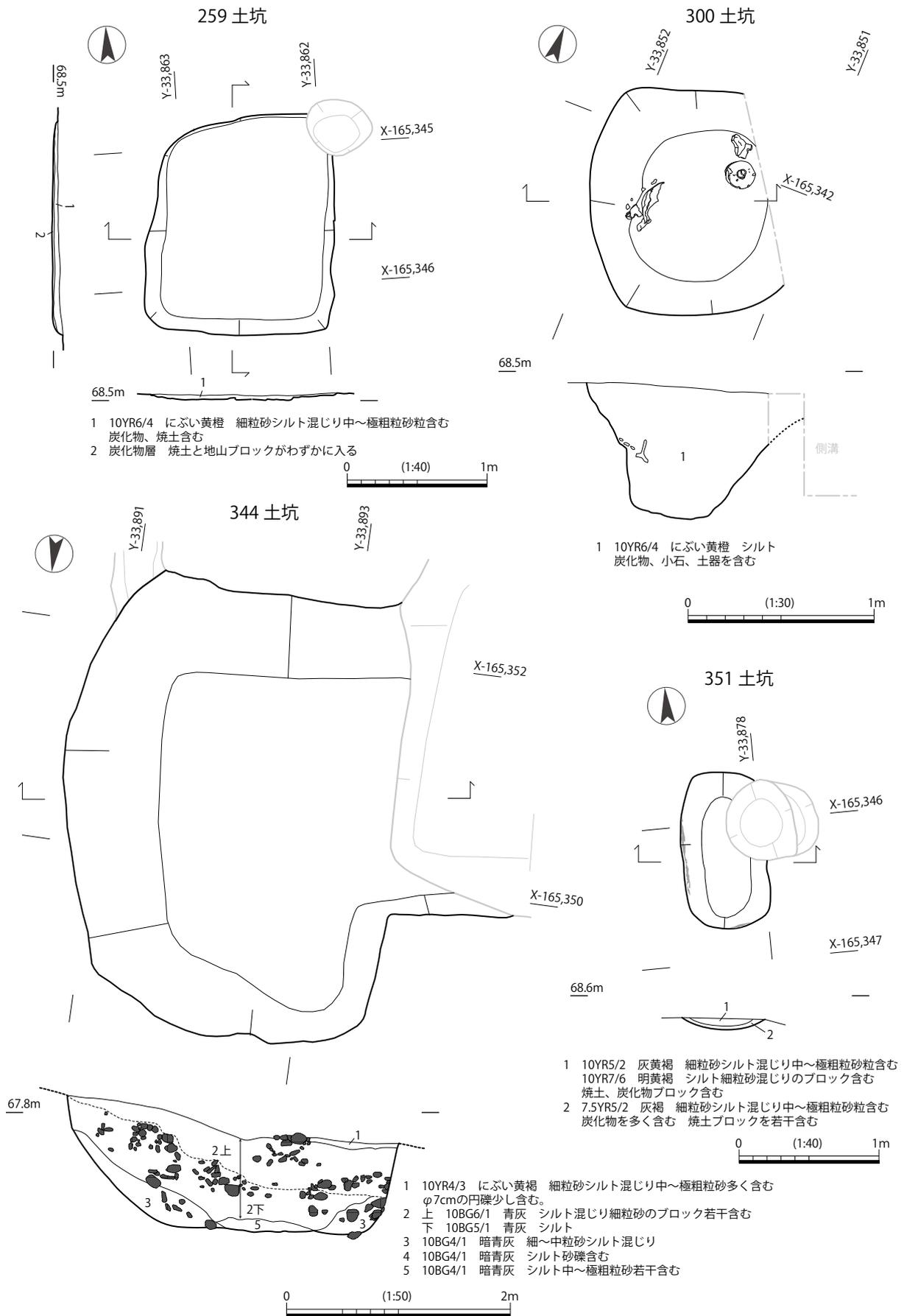


図 60 259 土坑、300 土坑、344 土坑、351 土坑